(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

- I.その人らしい暮らしを支える
 - (1)ケアマネジメント
 - (2)日々の支援
 - (3) 生活環境づくり
 - (4)健康を維持するための支援
- Ⅱ.家族との支え合い
- Ⅲ.地域との支え合い
- IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価! ステップ 外部評価でブラッシュアップ!! ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

	SELVINE DADARDA
評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5年 11月 24日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	15名	(依頼数)	18名
地域アンケート回答数		5:	名	

※事業所記入

事業所番号	3871400317
事業所名	グループホーム昴星
(ユニット名)	2階
記入者(管理者)	
氏 名	今城広子
自己評価作成日	令和 5年 10月 30日

(別表第1の9)

(10132 971 1072)		
[事業所理念]	[前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果]	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】
		山間部にある3階建ての洋風の建物の事業所は、自然豊かな小高い丘に立地をしている。法人は、南予地域を中心に、医療や高齢者施設、グループホームなどの多岐に渡って、地域に投どし事業を展開している。感染対策が緩和されたことで、利用者の外出支援が再開きれ、利用者は楽しみにしている。行事ごとに、イベントでゲームをしたり、美味しい物を食べたりするなど、笑顔で楽しみのある生活が送れるよう支援している。職員は業務に追われながらも、利用者本位で、明る〈笑顔で接することを大切に心がけた支援に取り組んでいる。また、医師である代表者は、往診等で頻回に来訪があるほか、医療連携者護師との協力体制が図られ、積極的に看取り支援にも取り組むなど、家族は利用者を安心して任せることができている。管理者は、地域との交流で苦慮をしているが、地元出身で個人的に地域と交流を図ることができていることもり、今後は個人の繋がりの強みを活かしながら、少しずつ地域との交流が図れるように、オーブンに開放された事業所となることも期待される。管理者は職員からの信頼も厚く、一緒に利用者を支え合えながら、より良いサービス提供に努めている。

	Ī	评	価 結 果 表		施状況の評価】 :<できている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない				
項目 No.	評価項目	小項 目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
	の人らしい暮らしを支える								
(1)ク	アマネジメント								
		а	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	0	日々の関わりや会話の中でも情報収集し思いを理解しているが、困難な場合もある。	0		0	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という 視点で検討している。	0	意思の疎通が困難な状況になっても表情や言動より思いをくみ取り利用者の立ち場になって考え るようにしている。				日々の生活の中で、職員は利用者から思いや意向を聞くよう努めている。日常生活のゆっく
1	思いや暮らし方の希望、意向 の把握	С	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)ととも に、「本人の思い」について話し合っている。	0	面会に来られた時に会話の中から情報を得たり、面会ができない場合でも電話連絡の際に聞き思 いについて考えている。				りとした時間のほか、リハビリの時に、利用者から思いを聞くことが多く、食事やおやつの希望がよく出されている。先日、男性利用者から「家に帰って、整理をしたい」との要望が出さ
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	0	介護記録や業務日誌、ケアカン等で思いや暮らしへの情報があれば記録し職員間で情報の共有 に努めている。				れ、自宅を心配している気持ちに配慮し、家族の面会時に報告をするようにしている。
		е	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	0	職員の思いではなく利用者の立場に立ち職員間でも意見交換を行う事に加え思いを見落とさない 様に関わりを大切にしている。				
		а	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや 大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経 過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞い ている。	0	入所前や入所後の情報を基に本人や家族から面会時にも会話の中から少しでも把握し利用者の 理解に努めている。			0	入居前に、管理者等が病院や施設のほか、自宅を訪問して、利用者や家族と面談を行い、これまでの暮らし方や生活習慣などの情報の聞き取りをしている。また、居宅介護支援事業所
2	これまでの暮らしや現状の把握	b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力 (わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に 努めている。	0	これまでの暮らしでしてきた事を踏まえ作業のきっかけを作ったり、できる事とできない事を把握し た上で時間をかけて関わりを持つようにしている。		\mathcal{V}	I /	の介護支援専門員から情報を聞くほか、医療関係者から基本情報を提供してもらうこともあ る。さらに、日々の生活の中で、利用者から新たな情報を聞くこともあり、把握した情報は、ア セスメントシートなどに記載し、職員間で情報を共有している。介護計画の更新時には、アセ
		С	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に務めている。(生活環境・職員のかかわり等)	0	基本的なスケジュールはあるが、御本人の状態に合わせて休息の時間を設ける等の一人一人に 合わせた対応をしている。				スメントシートの情報も合わせて、更新をしている。
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみな	а	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを 本人の視点で検討している。	0	日々の関わりや知り得た情報を基に、利用者の立場に立って考える事で必要としている事は何か 考えるようにしている。		\mathcal{V}	0	アセスメント情報や把握した情報をもとに、利用者の状態や要望を考慮し、ケアカンファレン
3	らず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の 把握に努めている。	0	毎月のケアカンの中でも利用者の課題や解決策を話し合い、職員間で共有し個別ケアが実施できている。		$\sqrt{}$		スを活用して、利用者本位の視点に立ち、課題やより良いサービスを検討している。
		а	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	0	御本人や家族の意向を踏まえ、ケアブランの中に組み込む事で思いや意向の反映された内容と なっている。				
4	チームでつくる本人がより良 く暮らすための介護計画	b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	0	主治医、医療連携看護師に相談しアドバイスを受ける事もあり御本人や家族の意向に添ったブラ ン作りを心がけている。	0		0	事前に、利用者や家族の意見や意向を聞き、往診時に医師から指示やアドバイスをもらいアセスメント情報や把握した情報をもとに、ケアカンファレンスの中で話し合い、計画作成担当者を中心に、介護計画を作成している。「移乗・移動がスムーズにできる」「姿勢に気をつけ、気持ちよく食事ができる」などの利用者の課題解決に向けた介護計画が作成できるよう
		С	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や 日々の過ごし方ができる内容となっている。	0	時には、フロアへ出て他の利用者さんと一緒の空間で過ごしたり、行事へ参加したりと、身体的な 状況を考慮しながらも楽しみを持って生活できる様な支援を行っている。				努めている。また、支援内容には、職員から出された意見やアイデアが反映され、日常生活の中で、利用者が自分でできる洗濯物干しやたたみなどの役割を取り入れることができてい よ
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が 盛り込まれた内容になっている。	Δ	自宅への外出や面会の時間をゆっくりと過ごして頂く等、ご家族さんに協力していただいている部分は多い。地域の方との関わりはほぼ無い。				

項目 No.	評価項目	小項 目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の	а	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間 で共有している。	0	サービスの実施内容を介護記録に記載し、毎月のモニタリングで振り返りしている。必要時ケアカンで再度話し合うこともあこれらの内容を職員間で共有できている。			0	ケアカンファレンスの中で、介護計画の内容を話し合うほか、介護記録の上段に短期目標が 記載され、職員間で共有しやすい仕組みづくりをしている。記録は、日勤と夜勤で色を使い分 けて、分かりやすく記載するとともに、職員から問いかけに対して、利用者が発した言葉や行 動をそのまま記録に残すなど、状況が分かりやすい記録を確認することができた。また、介
	支援	b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、 日々の支援につなげている。	0	介護記録の充実と内容を、毎月のモニタリングで振り返り新たな問題が見えてくる事も多い。これ らを再度話し合うことで情報共有ができ次回のブラン検討時に活用できている。			0	護記録には、計画に沿ったサービスの実施内容の記録を残している。職員により、記録に個人差が見られ、簡潔な記載のみに留まっている記録も見受けられるなど、管理者は「これからは記録方法を見直し、統一した記録ができるようにしていきたい」などと考えている。
		а	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	0	ケアカン時期間に応じて見直しを行い継続や変更をおこなっている。状態に応じてその都度見直しを行っている。		1/	0	基本的に、6か月に1回、介護計画の見直しをしている。計画の見直しに合わせて、アセスメ
6	現状に即した介護計画の見 直し	b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	0	月に一度現状確認の為モニタリングを行い介護計画の確認や問題や課題について把握している。			0	シト情報を更新するとともに、利用者や家族から意見や意向を聞き、ケアカンファレンスの中で話し合いをしている。また、毎月利用者ごとの担当職員を中心に、職員から気づきを報告してもらいながら、介護記録を確認し、利用者の現状確認や課題などを把握するよう努めている。さらに、大きな状態の変化が生じた場合には、その都度医師や医療連携看護師から意見
		С	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時 本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した 新たな計画を作成している。		状態に変化があった場合には家族や主治医、医療連携看護師にも報告し助言を頂いている。また、ケアカンファレンスを開催し、介護計画を作成している。			0	る。とうに、人どない感じを、にか、生じた場合には、この他などは、性気を助ける思え をもらうほか、指示やアドバイスを仰ぎ、関係者で話し合い、新たな介護計画を作成している。
		а	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、 あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	0	毎月ケアカンファレンスを実施している。利用者の状況に急激な変化や緊急性のある場合には臨 時カンファレンスを開催している。			0	毎月業務カンファレンスやユニット会議を開催し、職員間で情報共有をするほか、利用者の な現状確認や課題などの話し合いをしている。また、退院前などには、臨時カンファレンスを開
7	チームケアのための会議	b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話 し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫 している。	0	利用者のモニタリングを基に問題に対して意見が言いやすい雰囲気作りに努めている。お互いの 意見を尊重し話し合いが進められている。				後、保護が、保護などの話している。また、、このでありまとして、 臨時カンファレン人を開催し、課題解決に向けた話し合いをしている。また、業務カンファレンスには全ての職員を参加対象として、事前に日程調整を行い、多くの職員が参加できるようにしている。 会議に参加できなかった職員には、書面で確認してもらうほか、重要事項は口頭で内容を伝え、正確な情報が共有できるよう努めている。
		С	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員を 参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加で きない職員にも内容を正確に共有している。	0	希望日のない日を選び、時間帯も遅出終了後19時より開催している。フロアで開催する事で夜勤者も参加している。参加できない場合者書面や口頭で内容を伝えている。			0	INTERNATION COMPANY
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員 に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・ 家族とのやり取り・業務連絡等)		ロ頭や業務日誌、連絡ノートを活用し情報伝達をおこなっている。また、夜勤者が退勤時には各階 の申し送りを行い施設全体の状況も把握できる仕組みになっている。	0		0	業務日誌や連絡ノートを活用して、日々の申し送りを実施している。また、出勤時等に、職員 は業務日誌や連絡ノートを確認し、確認後にサインなどを残すなど、確実な申し送りや情報 伝達に繋げている。
(2)	日々の支援			<u> </u>		<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	
,_,		а	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	Δ	塗り絵や音楽鑑賞等余暇時間の過ごし方について御本人に聞き可能な限りで希望に添うことができる様に努力はしているが、勤務体制の問題でできていない面も多い。				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	0	認知機能の低下により自己決定できない場面が多くなっている。着る服を職員と一緒に選んだり、 横になって静養する等御本人の意向を確認しながら対応している。			0	日中に、自分の居室で新聞を読んだり、ベッドで横になって休息を取ったりするなど、利用者 は好きなことをしながら、思い思いの生活を送ることができる。また、日常生活の中で、入浴
9	利用者一人ひとりの思い、意 向を大切にした支援	С	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの ベースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、 食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	Δ	御本人のペースで生活して欲しいという気持ちはあるが、時間的に難しい事もあり他の利用者との 兼ね合いやスケジュールを優先した職員サイドのペースとなってしまう事がある。				時の着替える服やリハビリ体操で流す歌など、職員は声をかけ、利用者に確認や選択をして もらいながら、自己決定ができるよう支援している。訪問調査日の昼食時に、職員は現物を 見せながら、「サラダにかけるドレッシングは、ゴマとゆずのどちらがいいですかりなどと、利 用者に選択できるような声をかけ、「ゴマでええよ、酸っぱいのがええ」などの笑いながら返
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等) を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	0	利用者の状態も重症化しているが、利用者が喜ばれる話や関わりを理解できており利用者に応じた関わり方を行っている。	\angle	\angle	0	答する様子を見ることができた。さらに、新聞を折ってもらう場合にも、利用者に「早いですね、手際がいいですね」などの声をかける職員の様子が見られ、利用者に次回の支援や励みに繋げている。
		е	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	0	思いを言葉で表出できない分、顔の表情や言動、アクセントより御本人の気持ちをくみ取りながら対応できる様にしている。				
	一人ひとりの誇りやプライバ	а	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやブ ライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意 誠して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声か けをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉がけや対応等)	0	人権やコンプライアンスについては定期的に研修会もありその必要性も理解することができている。利用者に対する声かけや対応でおかしいと思う事に対しては職員間で話し合いを持っている。	0	0	0	年間の内部研修の計画の中に、人権やコンプライアンスなどをテーマに取り上げて、職員は学んで重要性を理解し、意識した対応に努めている。時には、職員と利用者が馴れ合いになり、馴れ馴れしい声かけをする職員も見られるなど、気になる場合は職員同士で話し合い、
10	シーを尊重した関わり	b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー 等に配慮しながら介助を行っている。	0	差恥心やブライバシーへの配慮をしながら、介助する事ができている。入浴等同姓介助を希望されている利用者に対しては希望に添い対応している。			\angle	注意喚起や意識向上に繋げている。また、職員は居室を利用者のプライバシーのある専有 の場所と認識し、居室に入る際に、ノックや声かけをすることを理解している。転倒リスクのあ
		С	職員は、居室は利用者専有の場所であり、ブライバシーの場 所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら 行っている。	0	居室はブライベート空間である事の認識ができており、声かけをしたりノックをし利用者の了解を得てから入出するようにしている。			Δ	る利用者の居室を開けっ放しにしたり、トイレを閉めずに介助したりする場面も見られ、管理者から、「利用者の尊厳やプライバシーなどの配慮がかけている」などの反省や振り返りの 声も聞かれた。今後は、人権や尊厳、プライバシーなどに配慮した支援が行われるように、 職員への周知徹底が図られ、実践されることを期待したい。
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止 等について理解し、遵守している。	0	・ 守秘義務については入社時の説明もあり遂行できている ・				

項目 No.	評価項目	小項 目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に 助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関 係性を築いている。	0	作業をお願いした場合でも御礼や感謝の気持ちを伝える事をいつも行っている。職員がケアをした 事で御礼を言っていただく事もありお互いに協力しあえる関係性ができている。				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	0	帰宅願望がある利用者様に優しく声かけをされる場面もあり、同じ空間で生活する仲間として馴染みの関係性ができている。				地元に住んでいた利用者が多く、食事の際に、利用者同士の会話が弾んでいる。認知症状 の進行に伴い、不穏になる利用者も見られ、トラブルに発展しそうな場合には、職員が注意
11	ともに過ごし、支え合う関係	С	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立 したりしないよう、利用者同士が関かり合い、支え合えるような 支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮を する、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の 利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	0	利用者の言動や行動から不快な思いをされ、大声で静止しようとトラブルになる事がある。共有スペースの座席の位置を工夫し少しでも落ち着ける環境を提供している。トラブル発生時には職員が間に入り仲裁しコミュニケーションを図っている。			0	を払って早期に間に入り、利用者の意見を聞くなど、大きなトラブルに発展しないようにしている。中には、世話好きな利用者もおり、他の利用者に励ましの声をかけたり、テーブルの片付けやコップを下げるのを手伝ったり、お菓子の袋を開けるなど、利用者同士の助け合いや支え合う場面を見られる。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に 努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないよう にしている。		トラブル発生時には御本人も落ち着ける様に気分転換に誘導する等の対策を行っている。他の利 用者に影響があった場合にはさりげなく声かけを行い説明をする事で気持ちが落ち着くよう配慮し ている。				
		а	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	0	入所時の情報収集やご家族からのお話を職員で共有。後日コミュニケーションの中かで知る事の できた情報も記録に残し更なる理解に努めている。		\mathcal{V}		
12	馴染みの人や場との関係継 続の支援	b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会 いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これま で大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援し ている。	Δ	知人や友人の面会が少ないが、居室でゆっくりと面会ができる様配慮している。ご自宅への外出 をされる利用者がおられその際には近隣の方や住み慣れた自宅で過ごすともあり御家族任せで はあるが良い時間が過ごす事ができている。				
13	日常的な外出支援	а	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に 沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の 都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固 定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	0	毎月各階の行事担当者が話し合い行事の内容を話し合い季節に合わせた企画をしている。その 中で、内容や場所も固定化する事無く利用者も同じ人にならないように配慮している。長時間の外 出が困難な利用者に対しても園庭や外気浴の時間を設け楽しんで頂いている。	Δ	×	0	感染対策が緩和され、年間行事の中に外出支援を取り入れ、ドライブをして初詣に出かけたり、季節の花を見に行ったり、道の駅に行くなど、直近の1年間は毎月のように外出ができるようになり、利用者に喜ばれている。また、日頃から、事業所前にある池の金魚に餌をあげた
15	日中のタイト田文章	b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も 得ながら、外出支援をすすめている。	Δ	一人だけ御家族の協力で外出される方がおられるが、その他これらの外出支援は実現していな い。				る。ハース・利用を目を目がいている。ストス・ロ境から、デギが前にのるだの並ぶに再とのバルリン、ごみを出しに行ったり、ベランダに出て、ブランターの花の水やりや外気浴をするなど、少しでも戸外に出て、気分転換を図れるよう支援している。
		а	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、 一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因を ひもとき、取り除くケアを行っている。	0	施設内外の研修を通し知識の向上に努めている。利用者に起こっている行動・心理症状について も言動や行動の意味を理解し原因は何かと考えケア時に役立てている。				食事の際に、箸を使用して食べることのできる利用者には、声をかけて、時間がかかっても
14	心身機能の維持、向上を図 る取り組み	b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感 覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能 の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上 が図れるよう取り組んでいる。	0	日々経過観察を継続し、リハビリ体操や個別の機能訓練も継続する事で機能が低下しないように 支援をしている。支援するべき事と時間をかければできる事の見極めをしっかりと行い必要以上に 手助けをしないように注意している。				自分で食事を摂ってもらったり、トイレの際に、自分でズボンの上げ下ろしをしてもらったりするなど、可能な限りできることやできそうなことをしてもらい、利用者の自立支援に繋げ、職員は見守りやできない部分のサポートをしている。また、車いすの利用者にも、リハビリ体操の際に、立位訓練を実施するなど、機能訓練を実施することにより、心身機能の維持や向上に
		С	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	0	時間がかかるが自分で行う事ができる事柄に対しては、自分で行って頂いている。その際には利 用者の気持ちも理解しながら声かけをしたり場合によっては手助けを行い自立支援に繋げてい る。	0		0	取り組んでいる。
15	役割、楽しみごと、気晴らしの		利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏ま えて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握し ている。	0	日々の関わりの中で情報を得る。介助に対し気兼ねがある利用者もおられできる事があれば御本 人のやる気や役割、居場所ができる事で生活にも張り合いが出ている。				洗濯物干しやたたみ、調理の下ごしらえ、お盆拭きなど、日常生活の様々な場面で、職員は 利用者に声をかけ、できることや得意な役割を担ってもらえるよう支援している。包丁研ぎが 得意な男性利用者もおり、お願いをすると包丁を研いでくれている。中には、日めくりカレン
	支援	b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある 日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとり の楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	Δ	個人と関わりを持つ時間も大切にしており、作業として何かをできなくても食材の味見や、目の前で作業をする事で洗濯物に手を伸ばされる等の刺激になっている。施設外では個別の楽しみに対しては援助できておらず課題となっている。	0	0	0	ダーを毎日のようにめくる利用者もいる。また、金魚の餌やりをしたり、家庭菜園で、さつまいもやピーマンなどの野菜が育てられ、水やりや収穫をしたりするなど、役割や出番を担うことが、利用者のやりがいや楽しみにも繋がっている。

項目 No. 評価項	i項目	小項 目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人ら しい身だしなみやおしゃれについて把握している。	0	自分で選択する事のできる利用者に対しては、自己決定していただき自由におしゃれを楽しんで いただいている。その他は御家族さんに要望を聞き対応している。				
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	0	髪型や服の選択を言われる人には希望に添って対応している。 着替えも御家族さんが御本人の好みに合わせて購入し持参していただいている。				
		С	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアド バイスする等本人の気持ちにそって支援している。	0	御本人の好みを理解したうえで、気候にあわせて服を選んでいる。自己決定をしやすい問いかけ (どちらが良いか)等の問いかけの工夫をしている。				起床時に、職員は声をかけ、利用者自身で服を選んで着替え、身だしなみを整えることのできる利用者もいる。可能な限り、自分で整容や身だしなみを整えてもらい、職員は見守りやできない部分のサポートをしている。また、整容の乱れや衣服の汚れが見られた場合には、気
16 身だしなみやおり	らしゃれの支援	d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装 を楽しめるよう支援している。	0	外出時にはいつもは着ない服を選びおしゃれをしたり行事の前から楽しめる様な工夫をしている。				「一ついた職員がさりげなく声をかけてフォローをしたり、居室などに移動してもらい、着替えや汚れを拭き取ったりするなど、プライドを傷つけないような支援に努めている。さらに、医師であ
		е	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしてさりげなくカ バーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	0	さりげなくロ元の汚れを拭きとったり、衣類が汚れてしまった場合にはその都度交換し対応している。	0	0	0	る代表者から、利用者の整容や身だしなみに気をつけるように指導があり、週2回程度往診 の際に確認もあり、日頃から職員は注意を払いながら対応をしている。
		f	理容·美容は本人の望む店に行けるように努めている。	0	現在は契約している美容師の方に出張にてカットに来ていただいている。現在それ以外の希望はないがあればその都度対応していく。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工 夫や支援を行っている。	0	重度、経度に関係なくみだしなみについては介助し気持ちよく過ごしていただける様に支援している。				
		а	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	0	食事の一連のプロセスについて理解している。一連のプロセスの中でどこにアプローチが必要かいつも考えている。				
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者と ともに行っている。	0	調理ができる利用者がおられず、料理の簡単な下ごしらえやボールを支えていただく等大きな作業はできないけれど一緒に料理をつくる場の雰囲気を大切にしている。			0	
		С	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を 行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげてい る。	0	食事を楽しみにされている利用者が多く調理の過程を説明したり味見をしていただく等何らかの形で一緒に作業ができる様に支援している。御礼をいう事で達成感や自身に繋がっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの 有無などについて把握している。	0	アレルギーの有無は入所時にアセスメントしている。食事の様子や御本人からの情報により嗜好 品も理解している。				<u> </u>
		е	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	0	献立は会社内で統一されているが、季節の食材を使用した献立となっている。利用者の好みに合わせた献立の物が多く喜ばれている。			0	法人内の事業所が持ち回りで献立を作成し、法人本部が発注した食材が週3回届けられ、
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等 の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付 けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しな い、いろどりや器の工夫等)	0	嚥下や咀嚼の状態によりやむを得ない場合は食事形態を変更して安全に食事をしていただいている。ミキサー食の場合でも彩や食器の工夫より見た目の大切さも理解し実践できている。				「利用者に野菜を切ってもらうなどの調理の下ごしらえやテーブル拭きなどを手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。菜園で収穫した旬の野菜を調理するほか、誕生月や行事の際に、利用者のリクエストを聞き、献立を変更して、寿司や弁当などを提供し、利用者に喜ばれている。正月には、職員手作りのおせち料理が振る舞われるなど、利用者の楽しみになるよ
食事を楽しむこと 授	ことのできる支	g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使 用している。	0	奢や茶碗も個人の物を準備している。大きさや重さ、色(ご飯が見え易い)等の工夫している。			0	「うなメニューの提供をすることもある。一人ひとりの利用者の決められた茶碗や箸、コップを 使用するとともに、利用者の身体状況に合わせて、軽量で持ちやすい食器を使用している。 食事の際に、職員は見守りやサボートを重視することで、利用者と一緒に食事を摂ることは
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一 人ひとりの様子を見守り、食事のベースや食べ方の混乱、食 べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	Δ	スペースの問題や、利用者が多く食事は一緒には扱っていない。食事時には見守りを行う中で食 べこぼしや食事動作の補助や介助をさりげなく行っている。		\mathcal{V}	Δ	できていないが、利用者の食後に、職員は休憩時間を活用して、同じ空間で同じ食事を摂っている。また、重度で、居室で食事を摂る利用者にも、職員は献立を説明するとともに、「美味しそうですよ」などの声かけをしながら食事介助をしている。さらに、業務中や献立委員会の中で、利用者の状況に合わせて、トロミやミキサー食などの食事の形態や、おかゆなどの
			重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して 利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくり や調理に配慮している。	0	食事を作る音や臭い、食材を見て頂く事で同じ空間で食事作りをしている事を感じて頂ける様にしている。	0		0	調理方法のほか、味付けなどの話し合いをしている。必要に応じて、医師や医療連携看護師から、減塩や栄養バランスなどのアドバイスを受けることができている。
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養 パランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるよう にしている。	0	病気との兼ね合いや、食事の提供量においても職員間で共有している。食事や水分がしっかりと 摂取できているか把握する為の食事、水分量を記載する一覧表を使用している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食 事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄 養や脱水にならないよう取り組んでいる。	0	食事摂取量や水分量が少ない場合には栄養補助ジュースや、好みの飲み物を提供し食事や水分量が不足しない様に注意している。体重測定を月に1回行い増減にも注意している。				
		1	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養 士のアドバイスを受けている。	0	栄養士が在籍しておらずアドバイスを受ける機会はないが、職員が気を付けている。			0	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を 日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	0	業務の中で調理器具の消毒を項目にあげており実践している。食材にも日付を記入し古いものから使用するようにしている。				

項目 No.	評価項目	小項 目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	0	毎食後の口腔ケアの実施や口腔内のトラブルの有無を確認している。口腔ケアの重要性は理解 できている。				
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の 状態、舌の状態等)について把握している。	0	ロ腔ケア時には口の中の確認を行っておりトラブルがある場合には職員間で情報を伝え経過観察をおこなっている。			Δ	毎食後に、職員は声をかけ、居室にある洗面台で、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施し
18	口腔内の清潔保持	С	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について 学び、日常の支援に活かしている。	0	専門の方からアドバイスを得る機会はないが研修等で知識を深め実践している。				ている。見守りや介助の必要な利用者は、フロアにある洗面台で、職員が見守りやサポート をしている。職員は、介助のほか、訴えのある利用者の口腔内の状況を確認することができ ているが、自分で歯磨きができる利用者の口腔内の状況把握まではできておらず、定期的
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	0	義歯洗浄剤やブラッシングを十分におこなっており適切な取り扱いができている。				に、全ての利用者の口腔内の状況を確認し、記録に残せることを期待したい。必要に応じ て、歯科医に往診してもらうなどの対応をしている。
		е	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じな いよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ 歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医 の受診等)	0	歯磨きの時には見守りを行うが、どの場面でも確認を行うようにしており必要時洗い直しをおこなっている。口腔内のトラブルにおいては協力歯科医院がおられ相談している。(往診)			0	
		а	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	0	排泄介助を行う手段が御本人の生活や気持ちに影響を及ぼす事を理解できており、手段を検討 する際にも職員や御家族への相談を行っている。身体機能が維持できる様できない部分のみ介 入するようにしている。				
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	0	排泄間隔を把握できる一覧表を作成しており、便秘者が直ぐに把握できる体制ができている。便 秘による身体的な変化等にもその都度気づき職員間で情報共有ができている。				
		С	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	0	量や間隔においても把握できており、その人に合わせた量で排便量の把握ができている。便意が ある時のシグナルも把握し職員で共有できている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、 一人ひとりのその時々の状態にあった支援を行っている。	0	身体的な負担や排便状態より時間や体位を工夫したり自然排便や排尿を促す援助をおこなって いる。オムツやバットの見直しもケアカン時に定期的に行い状態にあった物品を使用するようにし ている。	0		0	事業所では、基本的に利用者がトイレで排泄できるよう支援している。日中に、職員は利用
19	排泄の自立支援	е	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる 点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行ってい る。	0	排便を困難にしている原因について職員間で気づきを共有している。水分量やトイレ誘導時の時間の変更等できる事から取り組んでいる。				者に声かけやトイレ誘導をしている。中には、重度化に伴い、立位を取ることが難しく、テープ 止めのおむつを使用している利用者もいる。また、パッド交換の必要のある利用者には、日 中にはトイレで、夜間には居室内で、交換をしている。さらに、カンファレンスの中で、利用者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早 めの声かけや誘導を行っている。	0	御本人の言動やシグナルに気づき兆候があるときにはトイレ誘導を行う事を基本としている。				の排泄状況に応じて、適切なパッドや紙パンツなどの排泄用品の使用を検討するとともに、 重度でおむつを使用している利用者の身体や排泄などの状況を確認し、適切な対応方法や 排泄用品の見直しなどの話し合いをしている。
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	0	利用者の重度化もあり職員サイドの提案により決定されている事が多い。希望を伝える事のできる利用者に対しては本人の意向を優先した対応を行っている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	0	下着に関しては御家族に用意していただいた物を使用している。素材や形等使用し問題がある場合にはその都度変更している。オムツやパットの使用に関しても状況に応じてケアカン時に相談し変更する事で御本人の状態に応じて選定する事ができている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて 便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼ら ない取り組み)	0	薬剤を安易に使用するのではなく、運動や食事等できる事から開始している。個々の状態に応じて対応できている。				
		а	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人 ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	0	午前中の入浴日の固定となっているが、不満や希望はない。その中でも順番を相談したり入浴方 法や時間、湯温の希望など御本人の希望に添ってできる限りの対応を行っている。	0		0	
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	0	準備や段取りに時間を使うのではなく限られた時間の中でも、入浴している時間はゆっくりと対応 している。		17		
20	入浴を楽しむことができる支援	С	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援してい る。	0	御本人ができる事の見極めをしっかりと行いできるだけ自分の力が発揮できるような働きかけを 行っている。介助して欲しいと言われる利用者にも臨機応変に対応している。				動務体制もあり、週2回午前中の時間帯に、利用者は入浴することができる。入浴の順番や 人浴方法、湯船に浸かる長さ、湯の温度など、利用者の希望やこだわりに応じて、柔軟な対 応を行い、少しでも入浴が楽しめるよう支援している。
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、 無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	0	拒否がみられる場合でも声かけや、散歩をし気持ちが変わるまで待ったり、無理強いせず後日に 再度声かけする等の対応をおこなっている。				れいと 1 い、 グレ くむ 八 付 か 未しめ るより又 抜し くい る。
		е	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極 めるとともに、入浴後の状態も確認している。	0	入浴前にパイタルサインの測定をおこなっており、入浴介助を行う職員が値の確認をし入浴を行う 流れとなっている。必要時再検も行いながら入浴ができる状態であるかの判断を行っている。				

21 安				評価	判断した理由・根拠	評価	評価	評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21 安		а	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	0	介護記録や申し送りによって情報共有を行い睡眠パターンの把握をおこなっているが、必ずしも当 てはまらない事もある。				
21 安		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来の リズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り 組みを行っている。	0	日中の過ごし方や活動量などから原因を探り関わり方の工夫を行う事で対応している。				でいます。 寝つきが悪く、夜間に廊下や居室を行き来する利用者がおり、職員は静かに見守りをするな どの対応をしている。状況に応じて、利用者の健康面を考えて、眠剤の服用に繋がることも あるが、解決策を見出して、薬の減量や中止ができるような支援にも努めている。また、ケア
	?眠や休息の支援	С	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内 容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を 行っている。		日中の過ごし方や夜間の睡眠状態の観察、十分な睡眠が確保できる様なケアの方法を職員間で 話し合い解決策を見出している。一つの方法として、医師に状況を説明した上で薬剤の使用をす る事もある。				カンファレンスの中で、日中の過ごし方や睡眠状態、睡眠確保のためのケア方法などを話し合い、医師や医療連携看護師に相談して指示や助言をもらい、夜間に利用者が安眠できるような支援に取り組んでいる。
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組 んでいる。	0	御本人の希望や、眠気が強い時等に日中でも身体を休める時間を確保する事で身体の負担の軽 減に努めている。				
		а	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	0	携帯電話を所持されている利用者がおりその方には自由に使用していただいている。手紙の希望 があった場合にも準備をし希望に沿う対応をしている。できない人は職員が代行している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、 促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	0	希望がある場合には、手紙の代筆をしたり必要な要件を代わりに電話連絡する等のサポートをおこなっている。				
22 電	記話や手紙の支援	С	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	0	携帯電話を所持している利用者は自由に使用して頂いている。それ以外では、日中に限り職員で 対応している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	0	返事を書いてみないかと御本人に聞いたり、お礼の連絡の介助をしたりと希望に沿って連絡している。頂いた手紙も居室に飾りいつでも読み返せるようにしている。				
			本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をして もらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いし ている。	0	協力体制はあるがそれぞれの家庭の事情もある為個々に合わせた対応をしている。御本人が希望がある場合にもその状況を御家族に説明し対応を検討している。				
		а	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを 理解している。	Δ	金銭の管理は金庫で行っておりお金を持ってはいない。欲しいと思う物がある場合には家族と相談し使用できる為その事を説明しこれまでの暮らしが継続できる様にしている。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買 い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	Δ	日頃の関わりはないが、外出先で車椅子の使用や公用車の昇降スペースの確保等状況を説明した上で協力をお願いする事がある。				
23 お	3金の所持や使うことの支援	С	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的 に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの 希望やカに応じて、お金を所持したり使えるように支援してい る。	0	御本人の希望が無い為所持されている方はいない。外出時に御自分の欲しいと思う物を手に取ったり、お金を支払う際には御本人の出来ない部分を介助しながら楽しみの一つとして使用して頂いている。(御家族の了承を得て)				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合って いる。	0	入居時に金銭の取り扱いについて説明をおこなっているが、金額によっては再度説明をし了解を 得て使用している。				
		е	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や 家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家 族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	0	購入したい物がある場合には御家族の了解を得ている。出納長の記録に加え毎月領収証と一緒 に出納簿のコピーもお渡ししている。				
24 多	・ 様なニーズに応える取り組み	7 ,	本人や家族の状況、その時々のニーズに対応して、既存の サービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に 取り組んでいる。	0	サービス内容に入っていなくても状況を判断し、要望によって陰機応変に対応している。	0		0	コロナ禍や感染対策が続き、外出や面会などの制限が設けられていたが、徐々に緩和され、 利用者や家族から出された要望には、可能な範囲で、臨機応変に対応をしている。家族の支 援で外出をしたり、自宅に一時帰宅をしたりすることができるようになっている。また、利用者 の要望に応じて、行きつけの美容室に出張サービスをしてもらったり、牛乳を配達してもらっ たりすることもできている。
(3)生活	舌環境づくり						V		
25 気	「軽に入れる玄関まわり等のi	配慮	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出 入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	0	玄関先には季節の花々や装飾品を飾ってあり親しみやすく明るい雰囲気作りをおこなっている。	0	0	©	建物の門扉は開放され、玄関先は来訪者の駐車スペースとなっている。訪問調査日には、 玄関スペースに、ケース入りの雛人形が飾られ、生花が活けられていた。また、整理整頓が 行き届き、清潔感のある玄関周りとなっている。

項目 No.	評価項目	小項 目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
			共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない 殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	0	廊下や階段、トイレには安全確保の為に必要な物以外は置かない様にしている。利用者の作品や 季節に応じた壁画を飾り季節感を感じて頂いている。また、居室には畳の間やテレビもあり家庭的 な雰囲気の中でゆっくりと過ごして頂けるつくりとなっている。	0	0	0	.自然な採光が入り、明るいリビングにはテーブルが置かれているほか、小上がりの畳スペー
26	居心地の良い共用空間づくり	b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除 も行き届いている。	0	山間部の静かな環境の中に施設があり不快な臭いや音もない。掃除も定期的におこなっており汚 れた場合はその都度掃除している。			0	スが設けられ、利用者は職員と会話をしたり、手作業をしたり、居室で新聞や本を読むなど、 思い思いの場所で過ごすことができる。3階ユニットの畳コーナーには、ひな人形が飾られ、 な関やリビング、洗面台などに、季節の生花が飾られるなど、利用者は季節を感じることが
			心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	0	常にフロアには季節の花が飾ってある。ベランダでは野菜や花を作り目で見て触って季節を感じて 頂いている。職員も地元の人が多く懐かしい地元の話をし心地よく家庭的な雰囲気の中で生活し て頂いている。			0	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	0	会話や性格で気の合う人が一緒に過ごす事ができる様に座席の配置の工夫をしている。居室で 過ごしたい方は居室でご自分の希望に沿って思い思いの場所で過ごしている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもの を活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る。	0	居室には御家族さんや思い出の写真が飾られている。御自分の好きな人形や絵を好きなように 飾っていただいており馴染の物に囲まれて生活して頂いている。	0		0	居室には、馴染みの物や使い慣れた物を持ち込むことができ、ラジオやテレビ、ぬいぐるみ、掛け時計、家族写真などを持ち込み、居心地の良い空間づくりをしている。中には、くしや化粧水などを置いている利用者もいる。訪問調査日の見学の際に、居室内で新聞を読む利用者から、「ここは最高ですよ。小さい山がいっぱい見えます」と微笑みながら、指を差して説明をしてもらうことができた。
28	一人ひとりの力が活かせる環 境づくり	а	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」 を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した 生活が送れるように配慮や工夫をしている。	0	車椅子や歩行器での移動の際の障害とならない様に必要物品のみを配置する様にしている。また、トイレや居室等が分かりやすいように表示してある。自立した生活が送れる様に支援している。			0	リピングや廊下には不要な物を置かず、歩行器や車いすを使用する利用者が、安全に移動できるような動線が確保されている。また、廊下や手すりを活用して、歩行訓練や立ち上がり訓練をする利用者もいる。食事の際に、車いすの利用者の足が床に届かない場合には、足
	æ 219		利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手 に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほう き、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、 ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	0	フロアには本があり種類も多くいつでも誰でも読むことが出来るようになっている。塗り絵をしたり 計算問題をしたりと余暇時間の過ごし方はそれぞれ自由に楽しめる様にしている。裁縫道具の危 験な物は職員の見守りの元使用していただく事となっているが希望者は最近はいない。				台を置くなどの配慮も行われている。さらに、トイレを大きく表示するとともに、矢印を入れるなど、利用者が認識しやすい工夫をしている。
29	鍵をかけないケアの取り組み	а	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害、鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	0	施設の玄関は夜間のみ施錠している。フロアの入り口は着た願望のある利用者がおられ危険はあるが見守りや関わり方の工夫により施錠はせず様子をみている。フロアの扉を開けるとブザーがなる仕組みとなっており注意している。帰宅願望のある利用者の行動も強くは制止せず行動を見守ったり、気分転換になる様な関わりを大切にしている。	0	0	0	職員は、鍵をかけることの弊害を理解している。各ユニットの入り口には、利用者の安全面に 配慮して、センサーチャイムが取り付けられ、職員は利用者の出入りを分かりやすくなってい ストのならなります。 海神の 2世 デニャル・フィッグ・ロット・フィッグ・ロット・フィック
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	0	御本人の様子を御家族にも伝え、一緒に解決策や現状を利器していただいている。できる事を しっかりと説明し御家族の不安も軽減できる様に配慮している。				る。令和6年1月まで、建物の1階はデイサービスとして活用され、日中に玄関の施錠をしていなかったが、現在は廃止され、玄関の施錠をしている。
(4)	健康を維持するための支援							_	
			職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	0	入所時の情報提供や御家族からの聞き取りにより既往や現病は個人のファイルに記載されている、留意事項も職員間で情報を共有し把握するように努めている。	\angle	\angle	\angle	
30	日々の健康状態や病状の把 握	b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサイン を早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを 記録に残している。	0	毎日のバイタルサインの測定に加え日々の関わりやその日の状態よりいつもと違った点はないか 気を付けて観察をおこなっている。申し送りにより情報を伝え継続して経過観察ができるようにし 記録にも残している。				
		С	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気 軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につ なげる等の努力をしている。	0	医療連携のシステムや主治医の往診もあり気になる事は相談できている。異常時にも状態報告を する事で早期に対応して頂いている。				
			利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族 が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	0	入所時の聞き取り調査や主治医の情報提供書により受領状況を把握した上で、かかりつけ医の 説明を行っている。御家族が他の病院を希望される場合にはその病院を受診する事は可能。	0			
31	いかりつけ医等の受診支援		本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつ け医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられる ように支援している。	0	かかりつけ医も御家族の意向を大切にされている。御家族や御本人の希望を優先し適切で希望 に沿った医療が受ける事ができる様に時には職員が間に入り対応している。				
		С	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や 共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意 を得られる話し合いを行っている。	0	基本的にかかりつけ医以外の病院の受診は御家族に対応して頂いている。受診結果を職員にも 伝えて頂き主治医に王国している。				

項目 No.	評価項目	小項 目		内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状况の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
	入退院時の医療機関との連	а	7	、院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人 に関する情報提供を行っている。	0	入院時には情報提供のサマリーを作成し入院時の通院の送迎時には情報を伝えている。必要時 電話連絡を受ける事もあり連携を図っている。		7	/	
32	携、協働	b	Z	な心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めて いる。	0	かかりつけ医は入院施設がなく入院時は別の病院となる為日頃よい関わりを持つことはできていない。かかりつけ医とは日頃より連携が取れており状態変化時の対応を相談出来ている。				
		а	<i>O</i> . 酉	ト護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内 の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の 記置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かか りつけ医や協力医療機関等に相談している。	0	状態に変化があったり不安な事があればいつでも相談できる医療連携の体制があり状態を伝え 指示をいただいている。			//	
33	看護職との連携、協働	b		言護職もしく訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつで 気軽に相談できる体制がある。	0	日中は病院に連絡し指示を頂いている。夜間や、休日も連絡できる体制があり、24時間を通して 必要な時に相談できるようになっている。				
		С	7	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療 こつなげている。	0	毎日のバイタルサイン時や発熱時の経過観察等申し送りをする事で職員が交代しても経過を観察 できる様に情報共有をおこなっている。状態に変化があった時は専門職の指示をもらい対応でき ている。				
		а	15	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量 について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家 集や医師、看護職等に情報提している。	0	内服薬は経過観察記録にも記載されており、薬状も確認する様にしている。本人の状態の変化や 気になる事は記録に残し御家族や医療職に報告し定期薬の調整も行って頂いている。				
34	服薬支援	b	₹ L	川用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援、、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	0	分包や色分け、一目でみて確認できる服薬ケースを用いる等工夫し、誤薬や飲み忘れのない様に 職員一人一人が注意している。				
		С	月	R薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作 用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘 さ下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	0	日々の状態観察をしっかりと行い、処方が変更になった時には特に注意して様子をみる様にして いる。服薬後の状態を医師にも報告し処方薬の検討の材料となる様にしている。				
		а	牞	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または 大態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その 食向を確認しながら方針を共有している。	0	入所時緊急時の対応についての意向をお聞きしているが、状態が変わった時やターミナル期等の 診断が医師よりあった場合には再度意向を確認し方向性を決定している。				
		b	<	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではな 、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、 5針を共有している。	0	ターミナル期の診断や状態に変化があった場合には、診断結果を基に医師の見解や御家族の希望にそった対応ができる様に方向性を決め、御家族にも情報をしっかりと伝えた上で対応している。	0		0	
35	重度化や終末期への支援	С	+	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思い さ力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極 ちを行っている。	0	職員間の情報共有や急変時にも落ち着いて対応ができる様に職員みんなが分かる様にしている。 出来ることと出来ない事をしっかりと御家族にも伝えている。				事業所では、「重度化及び看取りに関する指針」を整備し、入居時に、家族等に説明をしている。医師である代表者が、定期的に往診で来訪があり、生活を送る上で、利用者や家族には安心感がある。利用者の状態に応じて、医師や医療連携看護師、家族、職員を交えて話し合
		d		k人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方 けについて十分な説明を行い、理解を得ている。	0	入居時に説明をするようになっているが、病気になったり重症になる等状況が変わった場合にはそ の都度説明を行い、御家族の理解を得て対応している。				い、希望を踏まえて、方針を決定している。また、全ての職員が方針や方向性を理解して共有するとともに、医療連携看護師が家族と専門的な情報などの連絡を取り合うようにしている。
		е	がて	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家 集やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備 にで検討や準備を行っている。	0	御家族へ十分な説明を行った上で、関わりの中で御家族の思いを知り主治医や看護師への報告を行う。心配な事をその都度対応する事で安心して過ごして頂ける体制を作っている。予測できる 状況変化に合わせてあらかじめ説明を行い状態変化時の準備を行っている。				
		f		家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間 の事情の考慮、精神面での支え等)	0	状態の報告や、関わりの中で御家族の不安軽減に努めている。ターミナル期になれば24時間いつでも面会に来ることのでき安心材料になっていると思う。				
		а	A-	議員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、 干炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策 等について定期的に学んでいる。	0	職員は感染症発生時には直ぐに対応ができる様に、研修や勉強会にて学んでいる。				
36	感染症予防と対応	b	疽	8染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染 症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう 1頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	0	感染症対応マニュアルが作成してありいつでも閲覧できる状態となっている。感染症発生時には 直ぐに対応ができる様に備品類の整理を行っている。				
		С	7	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じ 医発症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の 技術情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	0	テレビやインターネットの情報をより、流行している感染症の情報を得る事で職員や、利用者の状態変化時の対応を行っている。(コロナ、インフルエンザの疑い等)				
		d		歳員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来 方者等についても清潔が保持できるよう支援している。	0	手洗い、うがい、マスクの着用を行っており感染症対策ができている。来訪者にもフロア入り口に マスクと手指消毒剤を設置してあり感染予防に協力して頂いている。				

項目 No. 評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い								
	а	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を ともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	0	御本人の最近の様子を面会時や電話連絡の際に報告し、施設に入居していても関係性が継続で きる様に御家族も交えて考えていける関係性作りに努めている。				
	b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を 作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交 流)	Δ	御家族と一緒に参加できる行事も検討しているが感染症の流行もあり最近は実施できていない。 御家族の希望で自宅への外出をされる方がおられる。	0		Δ	
	С	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	0	毎月広報誌(むつらぼし)の発行を行い状況をお伝えすると共に、電話連絡やメールを活用し写真 を送付しやりとりを行っている。	· ©		0	コロナの5類移行に伴い、家族との面会のほか、外出や外泊が自由にできるようになり、利用者や家族に喜ばれている。事業所内の行事は、家族が参加できる状態までには戻っておらず、法人・事業所として、少しずつ参加できるようにしていくことを予定している。毎月事業である。
37 本人をともに支え合う家族と	d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、高切な接近・方が応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	0	御家族の相談にのったり、日々の関わりの中で興味のある事や対応の仕方をお伝する事で交流 ができ関係性を維持できる様に間に入り対応している。				所便りを発行し、行事や利用者の様子などを伝えている。また、電話連絡をするほか、家族の要望や必要に応じて、メールやSNSのLINEを活用して、写真や動画を添付するなどの連絡を取り合う場合もある。事業所自体が運営上の報告をすることは少ないが、法人内の出来事は、法人の総務部から情報を発信しているが、利用者家族等アンケート結果から、事業所
の関係づくりと支援	е	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解 や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導 入、職員の異動・退職等)	0	ケアプラン変更時、家族に連絡して家族の意向をお伺いしている。また、希望があればその都度 情報を公開している。	×		Δ	「の運営上の事柄や出来事、職員の入退職などの情報が家族に十分に伝わっていないことが 窺えるため、事業所便りを活用して、新入職員や異動を紹介したり、担当職員の交代を伝え たり、ほとんど異動がない場合にその旨を伝えるなど、理解が得られるような周如方法を職 、員間で検討していくことを期待したい。管理者をはじめ、地元に住んでいる職員が多く、家族
	f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明 し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合ってい る。	0	排徊や転倒、食事の状態等生活の中で気になる事があった場合にもあらかじめ報告をおこなって いる。御本人にとって良い暮らし方を御家族や職員と共に相談し対応策を話し合っている。				と気軽に話せる関係性を築くことができている。
	gg	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連終等を積極的に行うとで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	0	側家族とのコミュニケーションも大切にしており、必要時に情報をお伝えしたり関わりの中で気軽に 何でも話せる関係性作りに努めている。面会に来ていただきやすい雰囲気作りや居室でゆっくりと 一緒の時間を過ごす等の配慮をしている。居室への宿泊も可能であるが希望される家族もおられない。			0	
	а	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己 負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	0	入居時、内容の説明を行い、確認・納得しただいていて契約を結んでいる。契約の変更時にもそ の都度説明を行っている。				
38 契約に関する説明と納得	b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確に し、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のい く退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合 は、その体制がある。	0	契約時に退去についても説明し同意を得ている。退去時には必要な情報を提供している。				
Ⅲ.地域との支え合い								
	а	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事 業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	0	運営推進会議を通して事業所の事を知って頂けるようにしているが、コロナ渦で会が開けずにいた。近隣施設から見学に来ませんかと声をかけて頂いたりもした。		0		
	b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら 暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を 深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・ 自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	地域での活動はほぼできていない、参加の案内も制限があり案内が来ない。地域の行事内容は 広報誌で見るが関係性を深める事は出来ていない		×	0	
地域とのつきあいやネット ワークづくり ※文言の説明	С	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えてい る。	×	散歩など外出する機会がない為支援の方はない				7 以前のような地域との交流までには戻っていないが、訪問調査月にはひな人形をギャラリー に見に行ったり、腹話術の慰問の受け入れをしたりすることを予定するなど、少しずつ地域と
地域:事業所が所在する市町 の日常生活圏域、自治会エリア	d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	×	玄関の施錠はしていないが地域の方が気軽に立ち寄る事はない				の交流が行えるようになってきている。前回の運営推進会議から新たに公民館主事が参加 するようになり、管理者等は「地域行事に、利用者と一緒に参加していきたい」と伝えている。
	е	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもら うなど、日常的なおつきあいをしている。	×	気軽に来て頂けるような声かけも出来ていない				「管理者は、デイサービスとして活用していた建物の1階スペースで、地域との交流の場として活用をしたり、地域に貸し出しをしたり、家族が参加できる行事を開催するなど、前向きに取り組む姿勢があり、今後は一つずつ達成していくことも期待される。
	f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	Δ	地域、近隣のボランティア支援への働きかけは出来ていないが慰問に来て頂いた。				
	g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で 豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや 関係を深めあ取り組みを行っている(公民館、商店、スペーパー コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・ 教育施設等)。	Δ	地域の施設(ジオミュージアム・しろかわ美術館)からのイベントへのお誘いを頂き行事として参加を したが、日頃からの協力などは得られていない。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加 がある。	0	運営推進会の開催時は地域の方、家族様への参加をして頂いている	×		0	
40	運営推進会議を活かした取 組み		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り 組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容 と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出され た意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表し ている。	Δ	議事録の公表は施設内のファイルに綴っている		0	0	令和5年5月以降に、集合形式の運営推進会議を再開することができている。会議には、利用者や家族、消防団、公民館主事、婦人会、市担当者などの参加があり、利用者の様子や行事報告、勉強会、ヒヤリハットなどの報告が行われ、参加メンバーの意見交換をしている。また、外部評価のサービスの評価結果のほか、会議の議事録は事業所内のファイルに綴じられ、いつでも閲覧できるようにしている。
		С	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席 しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	Δ	参加メンバーは地区の役が入れ替わるので前年度とは違う方に参加をして頂いている		0		
IV.J	り良い支援を行うための運	営体	al l						
41	理念の共有と実践	а	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、 代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	×	理念は作っているが施設の理念は開設当初の物である。 理念に基づいてはまだまだ不十分で 取り組めていない				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	0	施設内に大きく掲示をしている	0	×		
		а	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	0	代表者は利用者様の往診を兼ねて職員に状況を把握出勤している職員にも話しかけコミュニケー ションをとっている。外部、内部研修に学びたい講座を探し研修を受けている		\mathcal{I}		
	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営して いる法人の代表者であり、理 事長や代表取締役が該当す	b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習) を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	0	業務カンファレンスの後に勉強会を行い職員が講師役になり伝えるカ、まとめる力をもつけれている。 施設内勉強で内容を共有しスキルアップ出来るように各職員が取り組んでいる				医師である代表者は、定期的に往診で来訪があり、利用者や管理者等に声かけをしている。
42	またしながある。 が、法人の規模によって、 里事長や代表取締役をその 大人の地域密着型サービス 『門の代表者として扱うのは 計理的ではないと判断される		代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	0	前期、後期と年2回の評価シートを適用し、管理者・ホーム長が面談を行い各自が向上心を持てる ように話をしている				代表者が一人ひとりの職員と話す機会は少ないものの、管理者が職員から意見や提案を聞いたり、相談に応じたりするなどの対応を行い、必要に応じて、法人の総務部に伝えることもできる。希望休のほか、スキルアップのための資格取得の助成など、働きやすい環境づくり、や職員のスキルアップに繋がっている。また、感染対策で中止されていた親親会が再開さ
	場合、当該部門の責任者な どを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書 に記載する代表者と異なることはありうる。	d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の 意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都 道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	Δ	管理者は市内の同業者との交流はないもののキントーンなどを利用し情報交換を行っている。市 の職員とも毎月市へ出向く際に情報交換やアドバイスを頂いている。 総合研修 などへの参加は出来ていない				れ、直接交流をすることで、職員の要望を聞く機会にも活用されている。
		е	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や 環境づくりに取り組んでいる。	Δ	コロナ渦で行なえていなかった懇親会などを行い交流をしながら要望など聞ける機会を設けた	0	0	0	
		а	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学 び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行 為なのかを理解したうえで、これらが見過ごされることがない よう注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても 理解している。	0	代表者からカンファレンス時に必ず利用者様を敬う事への呼びかけの文章を読むようにしている。 虐待防止への防止を法人全体で行っている。虐待廃止委員会も行い適切なケアが行われている か、施設で困難事例報告と対応を話し合えるように取り組んでいる			0	年間の内部研修で議題に取り上げて、虐待や不適切なケアの防止などを学び、職員は理解をしている。また、カンファレンスの中で、利用者を敬う文章を唱和するなどの意識付けを行い、職員が意識した言動ができるよう努めている。さらに、年2回身体拘束などの自己評価を
43	虐待防止の徹底	b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	0	毎月カンファレンス、業務カンファレンスでも話あえるようにしている。毎日の引き継ぎ時にも報告し 対応への話す場がある				行うとともに、職員自らが振り返りをしている。加えて、虐待廃止委員会で、困難事例報告や対応などの話し合う機会を設けて、廃止に取り組んでいる。不適切なケアを発見した場合には、職員は管理者等に伝え、注意喚起をするとともに、必要に応じて、職員間で話し合いをし
		С	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに 影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	Δ	代表者、管理者共、勤務時に話せる時があれば聞いたりしてはいるが十分な時間は作れていな い				ั
		а	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	Δ	身体拘束委員会を設けたり、勉強会も行っているがまだまだ不十分である				
44	身体拘束をしないケアの取り 組み	b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	0	利用者様の状態や状況により報告し合って拘束へ繋がらないように話しあっている。勉強会も行い身体拘束委員会も開催している				
		С	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について 説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫 の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図ってい る。	0	身体拘束への要望はない。状態への理解をして頂けるよう に家族様へ説明を行っている。今後 拘束への要望があった時には主治医、医療連携看護師にも相談、家族様と話し合いを行うように 機会を作れるようにする				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活	а	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	Δ	研修に参加し研修内容を報告・共有し理解を深めれるようにしていく。今年はまだ研修に参加出来 ていない。家族様からの相談があれば支援出来るようにしていきたい。				
	я	b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援 センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書 士等)との連携体制を築いている。	Δ	包括支援などとは情報交換出来ていないが相談があれば支援できるように連携し情報交換を行っていきたい。				
		а	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や 事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	×	急変時の対応の勉強会を行っている。マニュアル作成は出来ていないが発生に備えるようにマ ニュアル作成を行っていきたい				
	急変や事故発生時の備え・	b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、 実践力を身に付けている。	0	法人内で救命講習や施設内での避難訓練を行っている				
46	事故防止の取り組み	С	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一歩手 前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討する など再発防止に努めている。	0	事故報告書・ヒャリハッドは活用している。発生した場合は報告と業務日誌にも記録して職員間で 都度検討周知出来るようにしている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	0	業務カンファレンス時などに検討を行い事故防止に取り組んでいる				
		а	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜 対応方法について検討している。	×	当施設では苦情マニュアルを作成しているが職員が十分に理解しているかは不十分である				
47	苦情への迅速な対応と改善 の取り組み	b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	0	迅速に対応するように努め苦情は真摯に受け止め市への 相談報告を速やかに手順に沿って対 応出来るように努める。 現在は苦情はない				
		С	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、 サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな 話し合いと関係づくりを行っている。	0	介護などの苦情があった時には速やかに職員で話し合いと解決が出来るよう又、サービス改善の 結果報告なども速やかに行えるようにしていく				
		а	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	0	契約時に家族様へ苦情への相談窓口がある事を説明を行っている又、玄関にはご意見箱も設置 している	0		0	
48	運営に関する意見の反映	b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	相談窓口がある事は契約時のみで情報交換は行えていない				【日々の生活の中で、職員は利用者から意見や要望を聞いている。家族からは、運営推進会 議や面会時、電話連絡等を活用して、意見や要望を聞くよう努めている。また、管理者は現 場で職員と一緒に従事し、職員の意見や気づきを聞き、気軽に相談に応じることができてい
40	建日に関する心儿の人 の	С	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・ 提案等を直接聞く機会をつくっている。	0	利用者様の往診時に出勤している職員と直接話しを聞く機会がある				る。 職員から、 意見を伝えやすく、 相談に応じてくれることもあり、 管理者は信頼されている。 必要に応じて、 職員から出された意見は、 カンファレンスの中で話し合い、 利用者本位の 支援に繋げられるように検討をしている。
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	0	利用者様には担当制にしていて利用者様の気づきなど毎月伝えるように話し合いを行っている。 職員の意見は業務カンファレンス時に聞けるように機会を作っている			0	及に乗げられるののには自己という。
		а	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解 し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	0	年一回話し合いの場を作って自己評価を各階で行っている。目的の理解は不十分である				
49	サービス評価の取り組み	b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	×	自己評価により出来ていないところが明確になるが実現できていない事もある。事業所全体で しっかり取り組む必要がある				外部評価の自己評価は職員全員で取り組み、ユニットごとに作成をしている。職員には、サービスの評価結果を報告することができているが、書面開催が続いたこともあり、運営推進会議の参加メンバーや家族にまでは評価結果や目標達成計画などを報告することはでき
	サービス評価の取り組み	С	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運 営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモ ニターをしてもらっている。	×	結果を踏まえての報告は職員にできているが報告はできていない	0	0	Δ	ていない。今後は、会議の中で、評価結果等の報告をして、意見をもらったり、会議に参加できていない家族に、分かりやすく取りまとめた報告書を送付したり、目標達成計画の取り組み状況を伝えて、モニターを呼びかけるなどの取り組みが行われることも期待される。
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	成果については報告できていない	7	17	7	

項E No.	評価項目	小項 目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
			様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成 し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害 等)		法人内でマニュアル作成を行っているがまだきちんとは出来ていない				
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	Δ	施設にて訓練を行うようにしているが今年はまだ行えていないので色々と想定し行っていくように計画していく				消防署の協力を得ながら、年2回火災や昼夜などの災害を想定した避難訓練を実施している。地元の消防団に協力を依頼し、合同訓練を実施することを予定しているが、具体的に話し合いまでには進展していない。また、過疎化もあり、地域住民との交流も少なく、災害時に
50	災害への備え	С	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	Δ	消化設備は業者が行っている備蓄品は各階で管理しているが今年はまだ点検を行えていない				おける地域との協力体制までは確保することができていない。利用者家族等アンケート結果 から、災害の備えに対して、十分な家族の理解が得られていないことが窺えるため、事業所 便りに訓練の様子を掲載したり、事業所内に訓練の様子の写真を掲示したりするなど、理解
			地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	Δ	運営推進会議時に地域の消防団への協力依頼をしたい事を伝えれたが訓練や話し合いの機会 や協力体制は確保できていない	×	0	Δ	が得られるような周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。また、今後は依頼した 消防団との話し合いをしたり、地域の防災訓練に参加協力したり、運営推進会議の新メン バーである公民館主事との協力体制を働きかけるなど、災害発生の危機感を持ちながら、早 急に協力支援体制を構築していくことも期待される。
		е	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同 訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市 町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	地域との共同訓練などあれば参加出来るように努力したい				ACCOMING TO THE HARD CO. NECOMING CHOOS.
		а	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	0	R5年11.10に城川ふるさと祭りがある為当施設のコーナーを設けて頂き情報発信が出来る場を設けられたので事業所の事を知って頂けるように伝えていきたい。地域の認知症養成講座への参加はできていない				
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を 行っている。	0	入居申し込みを持ってこられた時等相談を行えている。空室があった場合にも連絡し話をしている		×	Δ	入居などの相談が寄せられた場合には、快く対応をしているが、事業所として、積極的な相 談支援までは行われていない。以前は中学生の職場体験を受け入れることがでれたいた が、現在は学校からの依頼がなく、途絶えた状況となっている。また、地域のかれあいサロン
51	地域のケア拠点としての機能		地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。 (サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の 集まりの場等)	×	地域の方が集めれる場所への提供などは出来ていない				から、参加の誘いがあり、参加を計画している。管理者が考えているデイサービスのスペースを活用して、地域との交流の場と活用していくことも期待される。また、市行政や地域包括支援センターなどの関係機関と、SNSのキントーンを活用して繋がりがあり、連携や良好な
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	Δ	中学生の体験学習などの受け入れは出来るようにしている。養成は行えていない				関係性が築けるよう努めている。
		е	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育 等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら 行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)		市のキントーンに登録をしていて情報交換を行っている 密には不十分である			0	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

- I.その人らしい暮らしを支える
 - (1)ケアマネジメント
 - (2)日々の支援
 - (3) 生活環境づくり
 - (4)健康を維持するための支援
- Ⅱ.家族との支え合い
- Ⅲ.地域との支え合い
- IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価! ステップ 外部評価でブラッシュアップ!! ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

	SELVINE DADARDA
評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5年 11月 24日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	15名	(依頼数)	18名
地域アンケート回答数			5名	

※事業所記入

事業所番号	3871400317
事業所名	グループホーム昴星
(ユニット名)	3階
記入者(管理者)	
氏 名	平井百合子
自己評価作成日	令和 5年 10月30日

(別表第1の2)

(加茲第1072)		
[事業所理念]	[前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果]	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】
		山間部にある3階建ての洋風の建物の事業所は、自然豊かな小高い丘に立地をしている。法人は、南予地域を中心に、医療や高齢者施設、グループホームなどの多岐に渡って、地域に根ざした事業を展開している。感染対策が緩和されたことで、利用者の外出支援が再開され、利用者は実しみにしている。下事ごとに、イベントでゲームをしたり、美味しい物を食べたりするなど、笑顔で楽しみのある生活が送れるよう支援している。職員は業務に追われながらも、利用者本位で、明る〈笑顔で接することを大切に心がけた支援に取り組んでいる。また、医師である代表者は、往診等で頻回に来訪があるほか、医療連携看護師との協力体制が図られ、積極的に看取り支援にも取り組むなど、家族は利用者を安心して任せることができている。管理者は、地域との交流で苦慮をしているが、地元出身で個人的に地域と交流を図ることができていることもめ、今後は個人の繋がりの強みを活かしながら、少しずつ地域との交流が図れるように、オーブンに開放された事業所となることも期待される。管理者は職員からの信頼も厚く、一緒に利用者を支え合えながら、より良いサービス提供に努めている。

	Ī	平	価 結 果 表		施状況の評価】 :<できている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない				
項目 No.	評価項目	小項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
_	の人らしい暮らしを支える								
(1)ク	アマネジメント	1							
		а	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	0	利用者様にも暮らしへの思いを聞いたり、家族様へも意向をきいいているが不十分な所がある	0		0	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という 視点で検討している。	0	重度の方や認知が進んでいる方には家族様の話をケカカンで伝え話合い検討をしている		\mathcal{V}		日々の生活の中で、職員は利用者から思いや意向を聞くよう努めている。日常生活のゆっく
1	思いや暮らし方の希望、意向 の把握	С	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)ととも に、「本人の思い」について話し合っている。	0	ラインのやり取りや面会時に家族様に話を聞く様にし、職員間で共有し話合いを持ってる				りとした時間のほか、リハビリの時に、利用者から思いを聞くことが多く、食事やおやつの希望がよく出されている。先日、男性利用者から「家に帰って、整理をしたい」との要望が出さ
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録を している。		介護記録に毎日の記録をしているが変化のあった時も介護記録・業務日誌に記録し残す様にして いる				れ、自宅を心配している気持ちに配慮し、家族の面会時に報告をするようにしている。
		е	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさな いように留意している。	0	職員の思い込みで決めない様にはしているが、本人の思いを十分に留意出来ていない時もある				
		а	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや 大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経 通等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞い ている。	0	事前調査や入居の契約時に家族様と前施設からは入居になった経緯や施設様子、家族様からは 暮らしぶり、生活歴・本人の楽しみになる事などを聞いて情報収集を行っている。本人からも話を 都度聞けている			0	入居前に、管理者等が病院や施設のほか、自宅を訪問して、利用者や家族と面談を行い、これまでの暮らし方や生活習慣などの情報の聞き取りをしている。また、居宅介護支援事業所
2	これまでの暮らしや現状の把握	b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	0	入居時と半年に1度のアセスメントの見直しで心身の変化や残存能力などを把握できる様にケア カンファレンスでも確認や話合いを行っている				の介護支援専門員から情報を聞くほか、医療関係者から基本情報を提供してもらうこともある。さらに、日々の生活の中で、利用者から新たな情報を聞くこともあり、把握した情報は、アセセスメントシートなどに記載し、職員間で情報を共有している。介護計画の更新時には、アセ
		С	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に務めている。(生活環境・職員のかかわり等)	0	利用者様の過ごし方を個々の介護記録に記録し、1日の様子や変化があったことが把握出来る様 にしている。大きな変化の時には業務での引継ぎ時にも伝え日誌にも記録している				スメントシートの情報も合わせて、更新をしている。
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみな	а	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを 本人の視点で検討している。	0	情報をもとにケアカンファレンスで意見や新たな情報を交換し、本人の視点で考えられる様に何を 求めているのかを検討はしている			0	アセスメント情報や把握した情報をもとに、利用者の状態や要望を考慮し、ケアカンファレン
ŭ	らず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の 把握に努めている。	0	ケアカンファレンスで検討した内容を記録に残している、毎日の介護記録の中にも課題となる物が わかる様にし実施をしている				スを活用して、利用者本位の視点に立ち、課題やより良いサービスを検討している。
		а	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	Δ	出来るだけ本人の暮らしの思いを反映出来る様に声かけなどを行い、意向に添える様にはしているが不十分所もなある				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	0	3か月ごとのモニタリング時に手紙を添えたり、電話などでは言いにくい事も手紙で返信をして頂 いたり、面会時やラインでの中でも意見やアイデアを伝えている、関係者とも相談し作成が出来て いる	0		0	事前に、利用者や家族の意見や意向を聞き、往診時に医師から指示やアドバイスをもらい、アセスメント情報や把握した情報をもとに、ケアカンファレンスの中で話し合い、計画作成担当者を中心に、介護計画を作成している。「移乗・移動がスムーズにできる」「姿勢に気をつけ、気持ちよく食事ができる」などの利用者の課題解決に向けた介護計画が作成できるよう
		С	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や 日々の過ごし方ができる内容となっている。	0	自室ベッドで寝たきり状態でも、音楽を聴いて頂いたり行事には参加してもらったり、利用者様との コミュニケーションが取れなくても知ってる利用者様との懸け橋になっている				努めている。また、支援内容には、職員から出された意見やアイデアが反映され、日常生活の中で、利用者が自分でできる洗濯物干しやたたみなどの役割を取り入れることができてい 」
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が 盛り込まれた内容になっている。	Δ	コロナ過で家族様との外出も出来ていないが、面会時に本人が喜ぶ物や親戚・友人を一緒に連れ てきて頂き交流ができている。地域の方とはコロナ過で交流はまだ出来ていない				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の	а	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間 で共有している。	0	介護記録にも掲載し確認と把握をしながら支援が行えている。ケアカンファレンスにも記録し残して いる			0	ケアカンファレンスの中で、介護計画の内容を話し合うほか、介護記録の上段に短期目標が 記載され、職員間で共有しやすい仕組みづくりをしている。記録は、日勤と夜勤で色を使い分 けて、分かりやすく記載するとともに、職員から問いかけに対して、利用者が発した言葉や行 動をそのまま記録に残すなど、状況が分かりやすい記録を確認することができた。また、介
	支援	b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったか を個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、 日々の支援につなげている。	0	介護計画をもとに支援の実施を行っている、実施した事は記録にも残し具体的に行った事は介護 記録・業務日誌などで状況確認が出来る様にしているが、プランに沿って出来ていない支援もある			0	護記録には、計画に沿ったサービスの実施内容の記録を残している。職員により、記録に個人差が見られ、簡潔な記載のみに留まっている記録も見受けられるなど、管理者は「これからは記録方法を見直し、統一した記録ができるようにしていきたい」などと考えている。
		а	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	0	3ケ月・6か月に見直しや家族様の意見や思い、職員の意見を反映し介護計画の管理を行っている			0	基本的に、6か月に1回、介護計画の見直しをしている。計画の見直しに合わせて、アセスメ シト情報を更新するとともに、利用者や家族から意見や意向を聞き、ケアカンファレンスの中
6	現状に即した介護計画の見 直し	b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	0	評価月ではない時にも利用者の担当者の気づきや特変などの報告と相談をして状況確認を行っている			0	ンド情報を受利するとこもに、利用者で表版から思えて息向を向き、ケアカンテアレン人の中で話し合いをしている。また、毎月利用者ごとの担当職員を中心に、職員から気づきを報告してもらいながら、介護記録を確認し、利用者の現状確認や課題などを把握するよう努めている。さらに、大きな状態の変化が生じた場合には、その都度医師や医療連携看護師から意見
		С	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時 本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した 新たな計画を作成している。	0	本人に変化があった場合は、主治医・医療連携看護師・家族様とも相談し都度現在の様子を伝え れる様にライン・電話などで行っている、家族様の希望も確認しカンファレンスを行いブランニング を行っている			0	をもらうほか、指示やアドバイスを仰ぎ、関係者で話し合い、新たな介護計画を作成している。
		а	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、 あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催してい る。	0	定期的に月1回のケアカンファレンスと緊急な案件や終末期がある場合は臨時でカンファレンスを 開催している			0	毎月業務カンファレンスやユニット会議を開催し、職員間で情報共有をするほか、利用者の 現状確認や課題などの話し合いをしている。また、退院前などには、臨時カンファレンスを開
7	チームケアのための会議	b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話 し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫 している。	0	利用者様の担当者が毎月気づきメモを書いて、それを共有できる様にしている。暗い重い雰囲気 はなく意見が言いやすい場になってる				発い性能では超なくの治したいでしている。また、実別が同なこには、1997/アレノンを開 作性し、課題解決に向けた話し合いをしている。また、業務カンファレンスには全ての職員を参 加対象として、事前に日程調整を行い、多くの職員が参加できるようにしている。会議に参加 できなかった職員には、書面で確認してもらうほか、重要事項は口頭で内容を伝え、正確な 情報が共有できるよう努めている。
		С	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が 参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加で きない職員にも内容を正確に共有している。	0	職員全員が可能な限り出席出来る様に、時間帯を18時からとし夜勤者も内容が把握出来る様にフロアにて行っている参加できない職員にも内容が伝わる様に記録に残し確認している			0	INTERNATION COMPANY
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員 に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・ 家族とのやり取り・業務連絡等)	0	日々の情報は業務日誌に記録し全員が確認を行う様にしている、他階への申送りも毎日夜勤明 け者が行い情報共有している。業務連絡はグループラインを利用している。家族様ともラインや手 紙・面会時のやり取りは各階で行えている	0		0	業務日誌や連絡ノートを活用して、日々の申し送りを実施している。また、出勤時等に、職員は業務日誌や連絡ノートを確認し、確認後にサインなどを残すなど、確実な申し送りや情報 伝達に繋げている。
(2)	 日々の支援			<u> </u>		<u> </u>	<u> </u>		
		а	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶え る努力を行っている。	Δ	行動に制限を持たない様にし、声かけで「その日したいこと」などを聞いて過ごして頂いているが、 職員が不足の事もあり充分な支援が出来ていない				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	Δ	自分で決定が出来る方には声かけをし決めて頂いて支援を行っている、色々な場面での自己決 定に寄添える様にはしているが先々にロや手を出してしまう場合も多くある			0	日中に、自分の居室で新聞を読んだり、ベッドで横になって休息を取ったりするなど、利用者 は好きなことをしながら、思い思いの生活を送ることができる。また、日常生活の中で、入浴
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	С	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの ベースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、 食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	0	言葉で意思疎通ができる利用者様には自己決定を優失し支援出来・事は本人のベースや習慣を 大事にし行っている、「朝ですよ・御飯が出来ますよ・お風呂に浸かりますか」などのタイミングを大 事にしながら時間を知らす声がけを行う				時の着替える服やリハビリ体操で流す歌など、職員は声をかけ、利用者に確認や選択をして もらいながら、自己決定ができるよう支援している。訪問調査日の昼食時に、職員は現物を 見せながら、「サラダにかけるドレッシングは、ゴマとゆずのどちらがいいですかりなどと、利 用者に選択できるような声をかけ、「ゴマでええよ、酸っぱいのがええ」などの笑いながら返
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等) を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	0	利用者様との会話から引き出せる事が多いので、焦らず言いたいことに耳を傾け、楽しみやしたい 事困ってる事を言いやすい雰囲気が出せる様に努めている		\angle	0	答する様子を見ることができた。さらに、新聞を折ってもらう場合にも、利用者に「早いですね、手際がいいですね」などの声をかける職員の様子が見られ、利用者に次回の支援や励みに繋げている。
		е	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	Δ	言葉が出にくい方や意思疎通が困難な方には、声かけを行い場面の決定がしやすい言葉を職員 が伝えたりし表情や反応を見逃さない様に支援する努力を行っているが、本人の意向に沿った支援がなかなか出来ていない				
	一人ひとりの誇りやプライバ	а	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉がけや対応等)	Δ	利用者の人権・尊厳については勉強会や会議で学べるようにしているが、トイレの声かけが大きくなってしまったり、業務が忙しくなるとつい利用者様への口調がきつくなったり態度のも出てしまう事もある、特に職員が先生言葉で利用者様に言う時がある	0	0	0	年間の内部研修の計画の中に、人権やコンプライアンスなどをテーマに取り上げて、職員は学んで重要性を理解し、意識した対応に努めている。時には、職員と利用者が馴れ合いになり、馴れ馴れしい声かけをする職員も見られるなど、気になる場合は職員同士で話し合い、
10	シーを尊重した関わり	b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー 等に配慮しながら介助を行っている。	0	利用者が不快にならない声かけに気を付け様にはしている羞恥心やブライバシーに気を付けて支 援介助を行っている		\angle	\angle	注意喚起や意識向上に繋げている。また、職員は居室を利用者のプライバシーのある専有 の場所と認識し、居室に入る際に、ノックや声かけをすることを理解している。転倒リスクのあ
		С	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	0	利用者様が居室にいる時はノックをしてから入る様にしたりし配慮を十分にしている。居室にいな い時も他者が勝手には要らない様に戸は閉めてプライバシーに気を付けている			Δ	る利用者の居室を開けっ放しにしたり、トイレを開めずに介助したりする場面も見られ、管理者から、「利用者の尊厳やプライパシーなどの配慮がかけている」などの反省や振り返りの 声も聞かれた。今後は、人権や尊厳、プライバシーなどに配慮した支援が行われるように、 職員への周知徹底が図られ、実践されることを期待したい。
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止 等について理解し、遵守している。	0	利用者様のプライバシーや個人情報には十分に気を付けている				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に 助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関 係性を築いている。	0	利用者様にも色々なお手伝いや、地域の事・昔の習わしなど聞いて教えて頂いている、特にお手伝いをして頂いた時には感謝の気持ちを伝える様にしている、お互いが助け合っている「事で関係性が上手く築けている				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしてい くことの大切さを理解している。	0	一緒の地区の人や同じ農家稼業だったこと等話したり、出来る事を利用者様同士がしたり支え あって暮らしが出来ているのを理解している方もいる				地元に住んでいた利用者が多く、食事の際に、利用者同士の会話が弾んでいる。認知症状 地元に住んでいた利用者が多く、食事の際に、利用者同士の会話が弾んでいる。認知症状 の進行に伴い、不穏になる利用者も見られ、トラブルに発展しそうな場合には、職員が注意
11	ともに過ごし、支え合う関係	С	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立 したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮を する、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の 利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	0	認知症がある方との会話の中で同じ話を何度も何度のされる時等トラブルにならない様に職員が 間に入る時もあるが世話役の人には職員からも感謝の感謝の言葉を伝えるが当人も「ありがとう」 など伝えられている			0	を払って早期に間に入り、利用者の意見を聞くなど、大きなトラブルに発展しないようにしている。中には、世話好きな利用者もおり、他の利用者に励ましの声をかけたり、テーブルの片付けやコップを下げるのを手伝ったり、お菓子の袋を開けるなど、利用者同士の助け合いや支え合う場面を見られる。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に 努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	0	利用者様同士のトラブルはない、不安や支障を起こさない様に気を付けて支援しているr				
		а	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人 間関係や馴染みの場所などについて把握している。	Δ	本人から生活の上で助け合っていた方が居たこと等聞けることもある、家族様や面会に来られた 方との関係性を聴くなどし把握に努めている		\mathcal{I}		
12	馴染みの人や場との関係継 続の支援	b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会 いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これま で大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援し ている。		コロナ過で面会の制限をしていた為、知人などが面会に来て頂く事はなかった、なじみの店に行く 事も出来ていない				
13	日常的な外出支援		利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に 沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の 都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固 定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	0	外出行事を計画した時に、利用者様の希望を聞いて参加している。行く時間帯などは職員が決めるが利用者の固定はしていない車椅子での利用者様も外出し気分転換を図って頂けている。時々外にゴミ捨てや畑作業にも行き外気の気持ち良さを感して頂いている	Δ	×	0	感染対策が緩和され、年間行事の中に外出支援を取り入れ、ドライブをして初詣に出かけたり、季節の花を見に行ったり、道の駅に行くなど、直近の1年間は毎月のように外出ができるようになり、利用者に喜ばれている。また、日頃から、事業所前にある池の金魚に餌をあげた
10	атизулад <u>и</u>	b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も 得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出行事の時には職員が支援を行っている為、外部の方のお手伝いはない				り、ごみを出しに行ったり、ベランダに出て、プランターの花の水やりや外気浴をするなど、少しでも戸外に出て、気分転換を図れるよう支援している。
		а	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、 一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因を ひもとき、取り除くケアを行っている。	Δ	認知症については、施設内勉強会や外部の研修に参加し理解していて、行動や心理症状変化の 要因を職員で協力しながら取り除く努力は行っているが、まだ不十分である				食事の際に、箸を使用して食べることのできる利用者には、声をかけて、時間がかかっても
14	心身機能の維持、向上を図 る取り組み	b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・味下機能 の低下等を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上 が図れるよう取り組んでいる。	0	日常生活の中で残存能力の維持や向上が出来る様にケアプランに取り入れ取組んでいる、嚥下機能が低下している方には歌などを取入れ発語が出やすい様に体操時に工夫をしている、機能低下は個々に違うので職員が話合い無理のない様に取組んでいる				自分で食事を摂ってもらったり、トイレの際に、自分でズボンの上げ下ろしをしてもらったりするなど、可能な限りできることやできそうなことをしてもらい、利用者の自立支援に繋げ、職員は見守りやできない部分のサポートをしている。また、車いすの利用者にも、リハビリ体操の際に、立位訓練を実施するなど、機能訓練を実施することにより、心身機能の維持や向上に
		С	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を 極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づく り、環境づくり等)	Δ	出来事をできるだけ長く続けていってもらえる様に、見守りをしながら気長に行える様にしている が、時間が無い時等はロや手を出してしまう事もある	0		0	取り組んでいる。
15	役割、楽しみごと、気晴らしの	а	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏ま えて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握し ている。	. ©	編み物・縫物・歌を聴くなど個々の楽しみがあり個々で思い思いに過ごされている、出来る事とし て食材の下ごしらえを手分けして行って頂いたりしている				洗濯物干しやたたみ、調理の下ごしらえ、お盆拭きなど、日常生活の様々な場面で、職員は 利用者に声をかけ、できることや得意な役割を担ってもらえるよう支援している。包丁研ぎが 得意な男性利用者もおり、お願いをすると包丁を研いでくれている。中には、日めくりカレン
.5	支援		認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある 日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとり の楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	0	楽しみにしている事を、出来るだけ行って頂ける様に材料や新聞・本を提供したりし、気晴らしになる事などを行って頂ける様に支援をしている。ごみ捨て・洗濯物干しなども外の空気を感じて頂き季節を感じられたりされる。	0	0	0	ダーを毎日のようにめくる利用者もいる。また、金魚の餌やりをしたり、家庭菜園で、さつまいもやビーマンなどの野菜が育てられ、水やりや収穫をしたりするなど、役割や出番を担うことが、利用者のやりがいや楽しみにも繋がっている。

社会福祉法人愛媛県社会福祉協議会

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域 評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人ら しい身だしなみやおしゃれについて把握している。	0	「髪が伸びたんよ)と散髪をしたい訴えや、下ズボンは必ず要る方、ズボンの中に服をきちんと入れたいなど、その人らしい身だしなみを尊重し支援を行っている				
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	0	自立されている方は起床時・入浴時に好み服を着られている季節に応じての服装への声かけは 行っている				
		С	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアド バイスする等本人の気持ちにそって支援している。	Δ	職員の主観で衣類などを決めている、自立されている方には自自己決定をして頂いている				起床時に、職員は声をかけ、利用者自身で服を選んで着替え、身だしなみを整えることのできる利用者もいる。可能な限り、自分で整容や身だしなみを整えてもらい、職員は見守りやできない部分のサポートをしている。また、整容の乱れや衣服の汚れが見られた場合には、気
16	身だしなみやおしゃれの支援	d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装 を楽しめるよう支援している。	0	外出時は季節にあった服装をして頂ける様に、声かけなどを行っている				「づいた職員がさりげなく声をかけてフォローをしたり、居室などに移動してもらい、着替えや汚」れを拭き取ったりするなど、プライドを傷つけないような支援に努めている。さらに、医師であ
		е	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしてさりげなくカ バーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	0	毎朝の整容は声かけで行ってもらったり、自分のペースで丁寧にされる方がいるので見守りを行う 様にしている、特に食後は食べこぼしなどに気をつけエプロンやテイッシュを使われている	0	0	0	る代表者から、利用者の整容や身だしなみに気をつけるように指導があり、週2回程度往診 の際に確認もあり、日頃から職員は注意を払いながら対応をしている。
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	0	地域の馴染みの店には行けていないが、髪を切りたい時には業者に来て頂きかッとをして頂ける 様になっている]
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工 夫や支援を行っている。	0	重度の方でもきしんと上下おそろいのパジャマを着て頂いたり清潔が保てるようには支援介助を 行っている				
		а	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	0	朝食ですよーと声かけ、しっかり噛んで食べて頂ける様に見守りや声かけや介助を行っている]
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともに行っている。	0	利用者様と一緒に行える事は少ないが、包丁を研いで頂いたり、野菜の下ごしらえや簡単な調理 のお手伝いをして頂いている			0	
		С	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を 行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげてい る。	0	食材は配達がある為出来でいないが、食器の跡片付けや洗い物・テーブル拭きを声かけしお手伝 いs着て頂いている、「綺麗にしてもらってありがとう助かりました」とお礼も伝えている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの 有無などについて把握している。	0	利用者様のアレルギーは入居時に確認をしている、好き嫌いは本人に聞いたり、苦手でも食べら れる方がいるので無理強いをしない様に提供をしている				1
		е	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	0	法人内共有の献立がある、利用者様時事個々の好き嫌いを考えつつ、旬の野菜や果物を通じて 季節を感じて頂ける様に工夫し提供をしている			0	法人内の事業所が持ち回りで献立を作成し、法人本部が発注した食材が週3回届けられ、
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等 の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付 けの工夫をしている。(安局にミャサー食や刻み食で対応しな い、いろどりや器の工夫等)		利用者様個々の状態をは把握し刻みやミキサー、水分にはトロミを付けて提供をしている、ミキ サー食の方にもふりかけをかけたり、一品一品ミキサーにして味わって頂ける様に工夫している。		\mathcal{V}		利用者に野菜を切ってもらうなどの調理の下ごしらえやテーブル拭きなどを手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。菜園で収穫した旬の野菜を調理するほか、誕生月や行事の際に、利用者のリクエストを聞き、献立を変更して、寿司や弁当などを提供し、利用者に喜ばれている。正月には、職員手作りのおせち料理が振る舞われるなど、利用者の楽しみになるよ
17	食事を楽しむことのできる支 援	g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使 用している。	0	個別にお茶碗お箸を準備していて、柄を覚えている方には自分で取って頂ける様に声かけを行っている、時々「これ違うよ」と逆に教えて頂く事もある			0	「うなメニューの提供をすることもある。一人ひとりの利用者の決められた茶碗や箸、コップを 使用するとともに、利用者の身体状況に合わせて、軽量で持ちやすい食器を使用している。 食事の際に、職員は見守りやサポートを重視することで、利用者と一緒に食事を摂ることは
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一 人ひとりの様子を見守り、食事のベースや食べ方の混乱、食 べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	0	食卓が狭い為いー緒に食べる事は出来ていないが、見守りや声かけが出来る様に職員が付添っている、出来るだけ自力で摂取されているので、状態をみて箸からスプーンなどの変更・食いじり や混乱がない様にサポートを行っている			Δ	できていないが、利用者の食後に、職員は休憩時間を活用して、同じ空間で同じ食事を摂っている。また、重度で、居室で食事を摂る利用者にも、職員は献立を説明するとともに、「美味しそうですよ」などの声かけをしながら食事介助をしている。さらに、業務中や献立委員会一の中で、利用者の状況に合わせて、トロミやミキサー食などの食事の形態や、おかゆなどの
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して 利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくり や調理に配慮している。	0	対面式の台所なので調理の様子や美味しいそうな匂いを感じて頂けている、「今日は〇〇ですよ や味見をして頂いたりし、食事の出来るまでを楽しみに待たれていたりされる、重度の方は居室に いる為伝わりにくい	0		0	調理方法のほか、味付けなどの話し合いをしている。必要に応じて、医師や医療連携看護師
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養 パランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるよう にしている。	0	食べる時の習慣は個々にあるので大事にし見守りを行っている、カロリー計算はしていないが栄養パランスが取れる様な工夫を行い提供をしている				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食 事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄 養や脱水にならないよう取り組んでいる。	0	食事・水分量はじゅうぶんに気を付けている、摂取量が減ったりし変化があった時には申送りで共 有・主治医や医療連携にも相談を行い、形態なども個々に状態に応じて変えたりし取組んでいる				
		I	職員で献立のパランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養 士のアドバイスを受けている。	0	献立委員が定期的に話し合い月ごとの献立を見直している、時期の応じた献立を取入れたり誕生日のある時にはお寿司や刺身を提供出来る様に工夫をしている			0	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を 日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めてい る。	0	食材の管理にはじゅうぶんに気を付けている、野菜を洗ったり食器を乾燥機でしっかり乾燥したり 安全に食べて頂ける様に取組んでいる				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っ ており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	0	ロ腔ケアについての勉強会も行っていて誤嚥性肺炎にならない為口腔ケアが大事な事は理解を している				
	口腔内の清潔保持	b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の 状態、舌の状態等)について把握している。	Δ	口腔ケアの支援は出来ているが、口腔内まではしっかり把握出来ていない所もある、痛みの訴え や義歯の不具合があった場合は協力医に往診をお願いしている			Δ	毎食後に、職員は声をかけ、居室にある洗面台で、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施し
18		С	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について 学び、日常の支援に活かしている。	Δ	協力医はあり往診にも来て頂く、その時にケア方法を聞いたりはする正しいケア方法の指導は受けていない、施設内勉強会は行っている				ている。見守りや介助の必要な利用者は、フロアにある洗面台で、職員が見守りやサポート をしている。職員は、介助のほか、訴えのある利用者の口腔内の状況を確認することができ ているが、自分で歯磨きができる利用者の口腔内の状況把握まではできておらず、定期的
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	0	養歯の手入れは適切に行えている、支援も行っている自分でされる方には声かけを行い支援して いる				に、全ての利用者の口腔内の状況を確認し、記録に残せることを期待したい。必要に応じて、歯科医に往診してもらうなどの対応をしている。
		е	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・方がい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	0	食後は必ず口腔ケアを行って頂ける様に、声かけ・見守り・介助をしている、ほとんどが自室で行っている。 口腔内に変化がある場合は本人が言って来られりする為都度対応が出来る様に取組んでいる			0	
		а	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能 を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・バッドを含 む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解し ている。	0	排泄の自立が維持出来る様に、日中・夜間共トイレに行かれる利用者様にはトイレに行って頂いているが排泄が困難な方にオムツを利用している、立位不安定な方には2人介助にてトイレへ誘導し介助を行いトイレでの排泄ができる様に支援を行っている				
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	0	便秘への理解も出来ている、排泄状況を把握し乳製品の提供や体操時・トイレ時に腹部マッサー ジをおこなったりもしている				
	排泄の自立支援	С	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	0	排泄の回数・時間帯も一目でわかる様に記録している、排泄物が確認出来る時には行ったり、本 人にこっそり聞いたりもしている				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・ パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、 一人ひとりのその時々の状態にあった支援を行っている。	0	個々に応じてリハパン・パッド・オムツを使用している、本人の状態に応じてケアカンで話しあい見 直しを行って支援をしている	0		0	事業所では、基本的に利用者がトイレで排泄できるよう支援している。日中に、職員は利用
19		е	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる 点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行ってい る。	0	要因を職員で話し合い改善出来る様に取組み、2人介助でのトイレ使用などケアプランにも取り入 れ支援ができる様に行ってる				者に声かけやトイレ誘導をしている。中には、重度化に伴い、立位を取ることが難しく、テープ 止めのおむつを使用している利用者もいる。また、パッド交換の必要のある利用者には、日 中にはトイレで、夜間には居室内で、交換をしている。さらに、カンファレンスの中で、利用者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早 めの声かけや誘導を行っている。	0	自立の方へは、個々のタイミングや兆候に合わせて声かけを行い誘導も行っている、夜間も自立 の方には付添いや見守りを行い失敗がない様に取組んでいる		\mathcal{V}		の排泄状況に応じて、適切なパッドや紙パンツなどの排泄用品の使用を検討するとともに、 重度でおむつを使用している利用者の身体や排泄などの状況を確認し、適切な対応方法や 排泄用品の見直しなどの話し合いをしている。
		gg	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	0	本人の状態が変わりオムツが必要になった場合は、ケアカンで話あった内容を家族様にも伝え必要性を理解して頂いてから使用をしている、自立でバットが必要な時には色々なバッドを試してから本人にあった物を使用して頂いている、状態が変化する事に話合い変る様に取組んでいる				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	0	本人の状態や排泄量や体形の変化に合わせサイズを変えたりし利用者様に合わせた物を使い分 けている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて 便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	0	便秘の訴えがあった時には乳製品の提供や食物繊維の多い食品を提供したり、体操時・入浴時・ トイレ時に腹部マッサージも行い出来るだけ自然排便が出来る様に取組んでいる				
		а	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人 ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	0	時間帯は午前中で順番や職員の都合になっているが前日に声かけし準備を自分でされる方もおられる、習慣も大事にし温度や体を拭かれる時にドライヤーをかけて欲しいと言われる方など個々に合わせて支援を行っている	0		0	
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	0	個浴なので、気分によりシャワー浴にされたり、湯船にゆっくり浸かられたりと声かけで好きな様に 入浴出来る様支援行えている				
20	入浴を楽しむことができる支 援	С	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	0	本人が出来る事は行って頂き洗身洗髪は一部介助をなども行っている見守りは必ず行い安心して 入浴して頂ける様にしている		\mathbb{Z}		動務体制もあり、週2回午前中の時間帯に、利用者は入浴することができる。入浴の順番や 入浴方法、湯船に浸かる長さ、湯の温度など、利用者の希望やこだわりに応じて、柔軟な対 応を行い、少しでも入浴が楽しめるよう支援している。
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、 無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	0	異性介助や体調不良を理由に嫌がられる方には無理強いをせず、本人の気持ちを優先し入浴への誘導を行っている				心で打い、少しても八分が来しめるより又接している。
		е	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極 めるとともに、入浴後の状態も確認している。	0	入浴前にはパイタルチェックを行い体調の様子を見てから入浴をして頂いている、入浴後に「ふら ふらしませんか?」と声かけし状態を確認し付添いなども行ったり水分補給も取って頂いている				

項目 No.	評価項目	小項 目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域 評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	0	睡眠が取れているかを定期的に巡視し確認を行っている、入眠までに時間がかかる方や不穏で 不眠になられる方もいる事は把握している				
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来の リズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り 組みを行っている。	0	昼夜が逆転しない様に、日中はフロアで過ごして頂いたりし、不眠になる原因を作らない様に取組 んでいる				寝つきが悪く、夜間に廊下や居室を行き来する利用者がおり、職員は静かに見守りをするな どの対応をしている。状況に応じて、利用者の健康面を考えて、眠剤の服用に繋がることも あるが、解決策を見出して、薬の減量や中止ができるような支援にも努めている。また、ケア
21	安眠や休息の支援		利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内 容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を 行っている。	0	不眠が続いたりした時には原因を探りケアカンで話合い、主治医や医療連携看護師に相談を行っている。寝る前に落ち着ける様な声かけや雰囲気作りにも気を付けている、入眠前の排泄誘導や眠りたいタイミングを大切にし取組んでいる		1/		カンファレンスの中で、日中の過ごし方や睡眠状態、睡眠確保のためのケア方法などを話し
			休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組 んでいる。	0	お昼ねされる方が多くいる為、ゆっくりくつろげる様に支援を行っている。				
		а	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取り ができるように支援をしている。	0	手紙のやり取りをされる方がいる、返事がくると喜ばれ何度も読み返されている、便せんや鉛筆消 しゴムと用意し支援を行っている				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、 促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	0	家族様から電話があった際は本人と話が出来る様に支援を行っている、こちらから促すことは出 来ていない				
22	電話や手紙の支援	С	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	Δ	本人の希望があった時には家族様ね連絡し、かけて頂くか面会に来て頂いている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫 している。	0	届け物があった場合などはお礼の電話をしたりし一方通行にならない様にしている、届いた手紙も 壁に貼ったり箱の中に保管し大切にして頂いている				
		е	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をして もらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いし ている。	0	家族様には理解と協力をして頂いている、家族様に声が聞きたいとの事を伝えると面会にきて頂 いたりするため、電話での対応は今はほとんどない				
		а	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを 理解している。	0	施設では原則お金を所持されていない、本人が小銭入れを持っている方が居る「今日の御飯代は?」など心配されるが少しだけ頂きながら所持金を使って頂く様に支援している				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買 い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	0	買物行事に参加される時には、欲しい物が買える様に職員が付き添い支援を行っている				
23	お金の所持や使うことの支援	С	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的 に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの 希望やカに応じて、お金を所持したり使えるように支援してい る。	0	買物行事時には所持金を本人に伝えるなどし、買物をする時に考えて購入できる様にしている、 入所時から小銭入れを持っている方には取り上げる事はせず自分で管理されている				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合って いる。	0	買物行事に参加する時には家族様へ報告と、購入品がある時には家族様へ伝えてから預かり金 の中から購入を行っている				
			利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や 家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家 族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	0	入所時に管理方法や毎月の明細を報告する様にしている、家族様には確認をして頂ける様なシステムになっていて預かり金残高詳細などは明確にしている				
24	多様なニーズに応える取り組み	4	本人や家族の状況、その時々のニーズに対応して、既存の サービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に 取り組んでいる。	Δ	家族様同意のもと、出張で散髪をされている	0		0	コロナ禍や感染対策が続き、外出や面会などの制限が設けられていたが、徐々に緩和され、 利用者や家族から出された要望には、可能な範囲で、臨機応変に対応をしている。家族の支援で外出をしたり、自宅に一時帰宅をしたりすることができるようになっている。また、利用者の要望に応じて、行きつけの美容室に出張サービスをしてもらったり、牛乳を配達してもらったりすることもできている。
(3) 4	活環境づくり								
25	気軽に入れる玄関まわり等のi		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出 入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	0	玄関入口には花や壁画を飾ったりし工夫を行っている	0	0	0	建物の門扉は開放され、玄関先は来訪者の駐車スペースとなっている。訪問調査日には、 玄関スペースに、ケース入りの雑人形が飾られ、生花が活けられていた。また、整理整頓が 行き届き、清潔感のある玄関周りとなっている。

### #################################	手作業をしたり、居室で新聞や本を読むなど、 ニットの畳コーナーには、ひな人形が飾られ、 (飾られるなど、利用者は季節を感じることが 清掃も行き届き、空気清浄機が置かれるな
26 居心地の良い共用空間づくり b も行き届いている。	ニットの畳コーナーには、ひな人形が飾られ、 「飾られるなど、利用者は季節を感じることが 清掃も行き届き、空気清浄機が置かれるな
心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかけ 楽楽物を王子時に楽剤の何いや外の園や王気を感じていたり、野童や花が育つ所を楽しまれた / / できる。また、共用空間の整理整頓が行われ、	清掃も行き届き、空気清浄機が置かれるな
c る様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の ゆり、体操時には歌を唄ったり笑ったりと楽しく過ごせる工夫の取組みを行っている じ、安全に気持ち良く過ごせる空間づくりが行え中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	17.10 (0 0)
d 気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも強りになれる居場所の工夫をしている。	
27 居心地良く過ごせる居室の配慮 本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。。 本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 家族様にも理解して頂き裁縫道具を持ち込まれたり、自室にテレビを置かれゆっくり見れたり本人がき置いている利用者もいる。 訪問調査者から、「ここは最高ですよ。小さい山がいっぱをしてもらうことができた。	の良い空間づくりをしている。中には、くしや化 を日の見学の際に、居室内で新聞を読む利用
建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」 を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した 生活が送れるように配慮や工夫をしている。 は 場所がわかる様に大きく表示したりし自立し行動が出来るような工夫をしている、目視でわかる様 と活が送れるように配慮や工夫をしている。 は 場所がわかる様に大きく表示したりし自立し行動が出来るような工夫をしている、目視でわかる様 できるような動線が確保されている。また、廊下 できるような動線が確保されている。また、廊下 割練をする利用者もいる。 食事の際に、単いす ないといる こと に ない こ	下や手すりを活用して、歩行訓練や立ち上がり 「の利用者の足が床に届かない場合には、足
利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりけなく置かれている。(ほうき、 表 養	イレを大きく表示するとともに、矢印を入れる
代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入 り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけらお出込相なれない 状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらが理的不 ョ 安や開塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたら す印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくて も済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、 近所の理解・協力の促進等) ② ● ○ 職員は、鍵をかけることの弊害を理解している。 ・ 職員は、鍵をかけることの弊害を理解している。 ・ 配慮して、センサーチャイムが取り付けられ、職 る。令和6年1月まで、建物の1階はデイサー	競員は利用者の出入りを分かりやすくなってい
機をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	
(4)健康を維持するための支援	
a 職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等につい ◎ 経過観察記録にて現病状や既往歴が記載してあり、すぐに確認が出来る様にしている で把握している。	
□ は では できるように注意しており、その変化やサインを でいる。 を早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを 記録に残している。 でいる、変化があった時には主治医や医療連携看護師に相談を行って、受診を行える様にしている。 は ない でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でい	
c 気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気 を軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につ なげる等の努力をしている。 ■ 異常時には主治医や医療連携看護師に連絡相談をし受診への指示を受けている、入院になる時 には主治医の指示ものと体制が取れるように関係性が出来ている	
a 利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族 が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。 ◎ 医療機関については家族様が希望される場合は受診介助も行っている、受診後も家族様や主治 医医療連携看護師に報告し受療状況が把握出来る様にしている	
□ 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医等の受診支援 □ 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられる □ 原則主治医の病院に受診をするが、家族様に相談し納得が得られない時には他の医療機関に受診をする事もある、受診介助も行っている □ 応をする事もある、受診介助も行っている □ 応をする事もある、受診介助も行っている □ 応答する事もある、受診介助も行っている □ 応答する事もある □ 応答する事もある □ 応答する事もある □ 応答する □ 応	
 適院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や 共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意 を得られる話し合いを行っている。 ○ 受診前に家族様へ連絡し、受診後も結果を報告している都度家族様の意向を聞ける様にし話合 いを行っている 	

項目 No.	評価項目	小項目	Ą	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
	入退院時の医療機関との連	а		、院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人 に関する情報提供を行っている。	0	入院の際には、本人の情報提供書を作成して渡している				
32	携、協働	b	る	な心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院でき るように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めて いる。	0	今、病院と施設との情報交換が出来ないところがある為、家族様への連絡をとり状態の把握を行う様にしている、退院が早く出来る様に家族様とも相談を行い病院に伝えて頂いている			\angle	
		а	の配	ト護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内 の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の 記置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かか りつけ医や協力医療機関等に相談している。	0	訪問看護と契約を行っている、週1回訪問往診をしている為、変化や困っている事を相談したり、 病状の把握情報を交換出来ている、訪問看護師から主治医への報告もあり受診や治療へと行え ている				
33	看護職との連携、協働	b		言護職もしく訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつで 気軽に相談できる体制がある。	0	医療連携看護師に体調が悪くなった利用者様の相談をいつでも相談できる体制ができている				
		С	で	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切に できるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療 こつなげている。	0	健康管理・状態変化に気づける様に努力はしている、異常があった時にすぐに主治医・医療連携 看護師に相談できる体制になっている為、受診し治療に繋げる体制になっている				
		а	10	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量 について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家 集や医師、看護職等に情報提している。	0	薬の説明書はいつでも見れる様に、経過観察とファイリングを行なっている、他の医療機関からの 薬は主治医や医療連携看護師報告出来る様に情報提供書中に記載されている				
34	服薬支援	b		利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援、、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	0	薬係がきちんと管理を行っている、服薬時は誤薬がない様に名前などを確認し手渡し・服薬介助 を行っている			\angle	
		С	用	限薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作 目(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘 さ下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	0	薬の変更・頓服服用の際には特に注意深く観察し記録に残している、服薬後の状態を主治医・医療連携看護師に報告も行っている				
		а	状	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または 大態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その 意向を確認しながら方針を共有している。	0	体調に大きな変化・異常があった場合は家族様へ報告し、状態に変化がある度に家族様へ報告と 話合いを行い意向をきちんと聞いている、主治医へ報告も行っている				
		b	<.	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではな 、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、 5針を共有している。	0	主治医・医療連携看護師・家族様・職員と相談していき、ケアカンで方針を共有していき連携し治療・支援介助ができる様に体制ができている	0		0	
35	重度化や終末期への支援	С	4	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思い さ力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極 かを行っている。	0	看取り期に入る前に臨時ケアカンを行い支援について話し合う機会をつくり支援の内容を共有し 対応出来る様にしたり、看取り期の不安がない様に勉強出来る様にファイリングしている			/	事業所では、「重度化及び看取りに関する指針」を整備し、入居時に、家族等に説明をしている。医師である代表者が、定期的に往診で来訪があり、生活を送る上で、利用者や家族には安心感がある。利用者の状態に応じて、医師や医療連携看護師、家族、職員を交えて話し合
		d		▶人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方けについて十分な説明を行い、理解を得ている。	0	家族様に理解して頂ける様に、出来る範囲で説明をし他の医療機関への選択もある事を伝えてい る、本人には説明できていない				い、希望を踏まえて、方針を決定している。また、全ての職員が方針や方向性を理解して共有するとともに、医療連携看護師が家族と専門的な情報などの連絡を取り合うようにしている。
		е	族で	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家 集やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチーム で支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備 にて検討や準備を行っている。	0	大きな変化があると、他の階へ相談・協力が得られる様に情報を共有している、主治医・医療連携 看護師に往診時不安な事は伝え不安なく対応出来る様に話合い相談している、都度家族様にも 今の状態を伝える事が出来る様にしている				
		f		家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間 の事情の考慮、精神面での支え等)	0	面会時には、家族様だけではなく状態を話している、家族様の心情などにも支えになれる様に、出 来るだけ心配事を聞いたりして安心して頂ける様に努力は行えている			\angle	
		а	ЯŦ	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、 干炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策 算について定期的に学んでいる。	Δ	勉強会を行い予防策・感染対策を周知徹底するようにしているが、まだまだ不十分である				
36	感染症予防と対応	b	症	8染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染 症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう 1頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	Δ	感染症への取り決めはあるが、発生した場合の手順は不十分である、勉強会は行えているが訓練は行えていない			/	
		С	τ	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じ (感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の 复新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	×	主治医からの情報、県・市の情報やキントーンで・インターネットでの情報を速やかに取り入れる様 にしたいが不十分である			Z	
		d		歳員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来 方者等についても清潔が保持できるよう支援している。	0	玄関に消毒液・マスクを設置、体温測定をして頂ける様にはしている。 職員は入室時うがい手洗い マスク着用は義務付けしている				

項目 No. 評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域 評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い								
	а	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を ともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	0	本人との関係性を築く努力と支えを行っているが、家族様との関係はまだ不十分である、普段の 様子・行事での様子をラインや面会時に伝える様にはしている				
	b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を 作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交 流)	×	コロナ過でもあった為施設での行事は行えていない	0		Δ	
	С	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容 を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用 者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	0	毎月新聞を作成し発送出来ている、新聞の中だけでは伝わらない事も多いのでラインが通じて 日々の様子を写真で送ったりする様になった為、より日常の様子が伝わりやすくなった。ラインから 兄弟や親戚にも送れると喜んで頂いた	。 ◎		0	コロナの5類移行に伴い、家族との面会のほか、外出や外泊が自由にできるようになり、利用者や家族に喜ばれている。事業所内の行事は、家族が参加できる状態までには戻っておらず、法人・事業所として、少しずつ参加できるようにしていくことを予定している。毎月事業
37 本人をともに支え合う家族と	d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、意切な接近・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	0	面会時に問題行動などは理解して頂ける様話をしたり、ケアブラン発送時に手紙にて報告する様 にしている、その際不安な事が聞ける様に返信欄を作り工夫をしている				所便りを発行し、行事や利用者の様子などを伝えている。また、電話連絡をするほか、家族の要望や必要に応じて、メールやSNSのLINEを活用して、写真や動画を添付するなどの連絡を取り合う場合もある。事業所自体が運営上の報告をすることは少ないが、法人内の出来事は、法人の総務部から情報を発信しているが、利用者家族等アンケート結果から、事業所
の関係づくりと支援	е	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解 や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導 入、職員の異動・退職等)	Δ	法人内での変更は総務部から文章にて案内や理解承諾を頂いている、職員の異動などは伝えられていない	×		Δ	「の運営上の事柄や出来事、職員の入退職などの情報が家族に十分に伝わっていないことが 窺えるため、事業所便りを活用して、新入職員や異動を紹介したり、担当職員の交代を伝え たり、ほとんど異動がない場合にその旨を伝えるなど、理解が得られるような周知方法を職 ↓員間で検討していくことを期待したい。管理者をはじめ、地元に住んでいる職員が多く、家族
	f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明 し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合ってい る。	0	状態が不安定な方には、家族様へ転倒などのリスクがある事を説明している、歩行から車椅子 なった時への説明がまだまだ不十分である				と気軽に話せる関係性を築くことができている。
	ρū	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気でりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	0	面会時には近況を伝える様にしている、家族様が不安に思っている事や希望など都度聴くようにしている、なかな水来れない家族様には手紙でのやり取りをして伺ったり、ラインや電話でも聴ける様に取組んでいる			0	
	а	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	0	契約時の内容変更は文章にて説明を行い不服がある場合は電話にて対応をしている				
38 契約に関する説明と納得	b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確に し、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のい く退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合 は、その体制がある。	0	退居時の過程を明確に伝えて納得され退居となっている、転居先にもスムーズに移れるように体 制が出来ている				
Ⅲ.地域との支え合い			A. W. C.					
	а	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事 業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	Δ	運営推進会議を通して事業所の事を知って頂ける様にしているが、コロナ過で会が開けずにいた、近隣施設から見学にきませんかと声をかけて頂いたりもした		0		
	b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら 暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を 深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・ 目治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	地域での活動はほぼ出来ていない、参加の案内も制限があり案内が来ない 地域の行事内容は 広報誌でみるが関係性を深める事は出来ていない		×	0	
地域とのつきあいやネット ワークづくり ※文言の説明	С	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えてい る。	×	散歩など外出する機会が無い為支援の方はない				 以前のような地域との交流までには戻っていないが、訪問調査月にはひな人形をギャラリー に見に行ったり、腹話術の慰問の受け入れをしたりすることを予定するなど、少しずつ地域と
地域:事業所が所在する市町 の日常生活圏域、自治会エリア	d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	×	玄関の施錠はしていないが地域の方が達が気軽に立ち寄る事はない				の交流が行えるようになってきている。前回の運営推進会議から新たに公民館主事が参加 するようになり、管理者等は「地域行事に、利用者と一緒に参加していきたい」と伝えている。
	е	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもら うなど、日常的なおつきあいをしている。	×	気軽に来て頂ける様な声かけも出来ていない				管理者は、デイサービスとして活用していた建物の1階スペースで、地域との交流の場として活用をしたり、地域に貸し出しをしたり、家族が参加できる行事を開催するなど、前向きに取り組む姿勢があり、今後は一つずつ達成していくことも期待される。
	f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	Δ	地域・近隣のボランティア支援への働きかけは出来ていないが、慰問に来て頂いた。				AND COMPLETED OF THE PROPERTY
	ър	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で 豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや 関係を深め取り組みを行っている(公民館、商店、Aーパー コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・ 教育施設等)。	Δ	地域の施設(ジオミュージアム・しろかわ美術館)からのイベントへのお誘いを頂き、行事として参加をしたが日頃からの協力などは得られていない				

項目 No.	評価項目	小項 目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域 評価	外部 評価	実施状况の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加 がある。	0	運営推進会議を開催時は地域の方・家族様への参加をして頂いている	×		0	
40 運	営推進会議を活かした取 み	b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り 組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容 と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出され た意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表し ている。	Δ	議事録の公表は施設内のファイルに綴っている		0	0	令和5年5月以降に、集合形式の運営推進会議を再開することができている。会議には、利用者や家族、消防団、公民館主事、婦人会、市担当者などの参加があり、利用者の様子や行事報告、勉強会、ヒヤリハットなどの報告が行われ、参加メンバーの意見交換をしている。また、外部評価のサービスの評価結果のほか、会議の議事録は事業所内のファイルに綴じられ、いつでも閲覧できるようにしている。
		С	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席 しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	Δ	参加メンバーは地区の役が入れ替わるので、前年度とは違う方への参加をして頂いている		0		
Ⅳ.より	良い支援を行うための運	営体制	N						
41 理	念の共有と実践	а	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、 代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。		理念は作っているが、施設の理念は開設当初の物である、理念に基づいてはまだまだ不十分で 取組めていない				
		Ь	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	0	施設内に大きく掲示をしている	0	×		
		а	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	0	代表者は利用者様の往診を兼ねて職員に状況を把握、出勤している職員にも話しかけコミュニ ケーションを取っている、外部・内部研修に学びたい講座を探し研修を受けている				
※ 代 い	員を育てる取り組み 文言の説明 表者:基本的には運営して る法人の代表者であり、理 長や代表取締役が該当す	b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習) を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取 り組んでいる。	0	業務カンファレンスの後に勉強会を行い、職員が講師役になり伝えるカ・まとめる力をも付けれている、施設内勉強で内容を共有しスキルアップ出来る様に各職員が取組んでいる				医師である代表者は、定期的に往診で来訪があり、利用者や管理者等に声かけをしている。
る: 理 42 法部	が、法人の規模によって、 事長や代表取締役をその 人の地域密着型サービス 引門の代表者として扱うのは	С	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	0	前期・後期と年2回の評価シートを適用し、管理者・ホーム長が面談を行い各自が向上心を持てる 様に話をしている				代表者が一人ひとりの職員と話す機会は少ないものの、管理者が職員から意見や提案を聞いたり、相談に応じたりするなどの対応を行い、必要に応じて、法人の総務部に伝えることもできる。希望休応ほか、スキルアップのための資格取得の助成など、働きやすい環境づくり、冷職員のスキルアップに繋がっている。また、感染対策で中止されていた懇親会が再開さ
場 ど い に	理的ではないと判断される 合、当該部門の責任者な を代表者として差し支えな。したがって、指定申請書 記載する代表者と異なるこ よありうる。	d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の 意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都 道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	Δ	管理者は市内の同業者との交流はない物の、キントーンなどを利用し情報交換を行っている、市 職員とも毎月市へ出向く際に情報交換やアドバイスを頂いている、総合研修などへの参加は出来 ていない				れ、直接交流をすることで、職員の要望を聞く機会にも活用されている。
		е	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や 環境づくりに取り組んでいる。	Δ	コロナ過で行えていなかった懇親会などを行い交流をしながら要望などを聞ける機会を行えた	0	0	0	
		а	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見過ごされることがないよう注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。		代表者から、カンファレンス時に必ず利用者様を敬う事への呼びかけの文章を誘むようにしている、 虐待防止への防止を法人全体で行っている。 虐待廃止委員会も行い適切なケアが行われているかも施設で困難事例報告と対応を話し合える様に取組んでいる				年間の内部研修で議題に取り上げて、虐待や不適切なケアの防止などを学び、職員は理解をしている。また、カンファレンスの中で、利用者を敬う文章を唱和するなどの意識付けを行い、職員が意識した言動ができるよう努めている。さらに、年2回身体拘束などの自己評価を
43 虐	待防止の徹底	Ь	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し 合ったりする機会や場をつくっている。	0	毎月ケアカンファレンス・業務カンファレンスでも話し合える様にしている、毎日の引継ぎ時にも報 告し対応への話す場がある			17	行うとともに、職員自らが振り返りをしている。加えて、虐待廃止委員会で、困難事例報告や 対応などの話し合う機会を設けて、廃止に取り組んでいる。不適切なケアを発見した場合に は、職員は管理者等に伝え、注意喚起をするとともに、必要に応じて、職員間で話し合いをし
		С	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに 影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	Δ	代表者・管理者共、勤務時に話せる時があれば聞いたりしてはいるが十分な時間は作れていない		17		ている。
	身体拘束をしないケアの取り 組み	а	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	Δ	身体拘束委員会を設けてたり、勉強会も行っているがまだまだ不十分である				
44 身		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	0	利用者様の状態状況により報告しあって、拘束へ繋がらない様に話し合っている勉強会も行い身 体拘束委員会も開催している				
		С	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について 説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫 の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図ってい る。		身体拘束への要望はない、状態への理解をして頂ける様に家族様へ説明を行っている今後拘束への要望があった時には主治医・医療連携看護師にも相談・家族様と話合いを行う様に機会を作れるようにする				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活	а	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度に ついて学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解し たうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情 報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	Δ	研修に参加し研修内容を報告・共有し理解を深めれる様にしていて、, 今年はまだ研修に参加出来 ていない、家族様からの相談があれば支援出来る様にしていきたい				
	Ħ	b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援 センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書 士等)との連携体制を築いている。	Δ	制度が利用できる様に包括支援センターなどとは情報交換出来ていないが、相談があれば支援 出来る様に連携し情報交換を行って行きたい				
		а	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や 事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	×	急変時の対応の勉強会を行っている、マニュアル作成は出来ていないが発生に備える様にマニュ アル作成を行っていきたい				
	急変や事故発生時の備え・	b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、 実践力を身に付けている。	0	法人内で救命講習や施設内での避難訓練をおこなっている				
46	事故防止の取り組み	С	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一歩手 前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討する など再発防止に努めている。	0	事故報告書・ヒヤリハットは活用している、発生した場合は報告と業務日誌にも記録して職員間で 都度検討周知出来る様にしている			\angle	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	0	業務内・カンファレンス時など都度事故防止に取り組んでいる				
		а	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜 対応方法について検討している。	×	当施設では苦情マニュアルは作成しているが職員が充分に理解しているかは不十分である				
	苦情への迅速な対応と改善 の取り組み	b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。		迅速に対応する様に努力はする様にし、苦情は真摯に受け止め市への相談報告を速やかに手順 に沿って対応出来る様に努める、現在は苦情はない				
		С	苦情に対しての対策素を検討して連やかに回答するとともに、 サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな 話し合いと関係づくりを行っている。	0	介護などの苦情があった時には速やかに職員で話合いと解決が出来両にし、サービス改善の結果報告なども速やかに行える様にしていく				
		а	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	0	契約時に家族様へ苦情への相談窓口がある事を説明を行っている、また玄関にはご意見箱も設置している	0		0	
48	運営に関する意見の反映	b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	相談窓口がある事は契約時のみで情報提供は行えていない				日々の生活の中で、職員は利用者から意見や要望を聞いている。家族からは、運営推進会 議や面会時、電話連絡等を活用して、意見や要望を聞くよう努めている。また、管理者は現 場で職員と一緒に従事し、職員の意見や気づきを聞き、気軽に相談に応じることができてい
40	医台に因する志元の反映	С	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・ 提案等を直接聞く機会をつくっている。	0	利用者様の往診時に出勤している職員とはなしたりし直接話を聞く機会がある		\angle		る。職員から、意見を伝えやすく、相談に応じてくれることもあり、管理者は信頼されている。 必要に応じて、職員から出された意見は、カンファレンスの中で話し合い、利用者本位の支 援に繋げられるように検討をしている。
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	0	利用者様には担当制にしていて、利用者様の気づきなど毎月伝える様にして話し合える様にして いる、職員の意見は業務カンファレンス時間ける様に機会を作っている			0	ELENTY ON BOOK PICKET E O CC 60
		а	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解 し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	0	年1回話合いの場を作って自己評価を各階で行っている、目的の理解は不十分である				
49	サービス評価の取り組み		評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	×	 自己評価により出来ていないところが明確になるが実現できていない事もある、事業所全体でしっ かり取組む必要はある 				外部評価の自己評価は職員全員で取り組み、ユニットごとに作成をしている。職員には、 サービスの評価結果を報告することができているが、書面開催が続いたこともあり、運営推 進会議の参加メンバーや家族にまでは評価結果や目標達成計画などを報告することはでき
		С	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運 営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモ ニターをしてもらっている。	×	結果を踏まえての報告は職員には出来ているが報告はできていない	0	0	Δ	ていない。今後は、会議の中で、評価結果等の報告をして、意見をもらったり、会議に参加できていない家族に、分かりやすく取りまとめた報告書を送付したり、目標達成計画の取り組み 状況を伝えて、モニターを呼びかけるなどの取り組みが行われることも期待される。
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	成果については報告できていない				

項目 No. 評価項目	小項 目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
	а	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	×	法人内でマニュアル作成を行っているが、まだきちんとは出来ていない				
	b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	0	施設にて訓練を行いう様にしているが、今年はまだ行えていないので色々と想定し行って行く様に 計画していく				消防署の協力を得ながら、年2回火災や昼夜などの災害を想定した避難訓練を実施している。地元の消防団に協力を依頼し、合同訓練を実施することを予定しているが、具体的に話し合いまでには進展していない。また、過疎化もあり、地域住民との交流も少なく、災害時に
50 災害への備え	С	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品 類の点検等を定期的に行っている。	Δ	消化設備は業者が行っている、備蓄品は各階で管理しているが今年はまだ点検を行えていない				おける地域との協力体制までは確保することができていない。利用者家族等アンケート結果 から、災害の備えに対して、十分な家族の理解が得られていないことが窺えるため、事業所 便りに訓練の様子を掲載したり、事業所内に訓練の様子の写真を掲示したりするなど、理解
		地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	Δ	運営推進会議時に地域の消防団への協力依頼をしたい事は伝えれたが訓練や話合いの機会や 協力体制は確保出来ていない	×	0	Δ	が得られるような周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。また、今後は依頼した 消防団との話し合いをしたり、地域の防災訓練に参加協力したり、運営推進会議の新メン パーである公民館主事との協力体制を働きかけるなど、災害発生の危機感を持ちながら、早 急に協力支援体制を構築していくことも期待される。
	е	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同 訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市 町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	地域との共同訓練などあれば参加出来様に努力したい				SICOMO JAKA PINTE HAXO CO CECONIN CAVO
	а	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かし て地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでい る。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成 研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	0	R5.11.10に城川ふるさと祭りがある為、当施設のコーナーを設けて頂き情報発信ができる場をもうかれたので事業所の事をしって頂ける様に伝えていきたい、地域の認知症養成講座への参加は出来ていない				
	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を 行っている。	0	入居申込を持って来られた時等相談を行えている、空室があった場合にも連絡し話をしている		×	Δ	入居などの相談が寄せられた場合には、快く対応をしているが、事業所として、積極的な相 談支援までは行われていない。以前は中学生の職場体験を受け入れることができていた すが、現在は学校からの依頼がなく、途絶えた状況となっている。また、地域のふれあいサロン
51 地域のケア拠点としての機能	С	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。 (サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の 集まりの場等)	×	地域の方が集めれる場所への提供などは出来ていない				から、参加の誘いがあり、参加を計画している。管理者が考えているデイサービスのスペースを活用して、地域との交流の場と活用していくことも期待される。また、市行政や地域包括支援センターなどの関係機関と、SNSのキントーンを活用して繋がりがあり、連携や良好な
	d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	Δ	中学生の体験学習などの受入れは出来る様にしている養成は行えていない				ブ関係性が築けるよう努めている。
	е	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育 等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら 行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	0	市のキントーンに登録をしていて情報交換を行っている、蜜には不十分である			0	